

**甲南大学  
甲南大学大学院**

ホームページ <http://www.konan-u.ac.jp>

◎**岡本キャンパス**

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1  
TEL (078) 431-4341 (大代表)

◎**西宮キャンパス**

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町8-33  
TEL (0798) 63-5741

◎**ポートアイランドキャンパス**

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町7-1-20  
TEL (078) 303-1457

**甲南高等学校・中学校**

〒659-0096 兵庫県芦屋市山手町31-3  
TEL (0797) 31-0551 (代表)  
ホームページ <http://www.konan.ed.jp>

**甲南大学ネットワークキャンパス東京**

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12  
サピアタワー10F

TEL (03) 6266-9520

ホームページ <http://www.konan-u.ac.jp/tokyo/>

**ウェブサイトによる  
「教育情報」の公開について**

本学では、平成23年4月1日に施行された「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」に伴い、ウェブサイトにて積極的に「教育情報」を公開しています。甲南大学ホームページの「公開情報」をご覧ください。

発行 令和元年6月

この冊子に関するお問い合わせは、  
以下までお願いいたします。

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1

学校法人甲南学園 総務部総務課

TEL (078) 431-4341 (代)

FAX (078) 435-2548

e-mail [sohmu@adm.konan-u.ac.jp](mailto:sohmu@adm.konan-u.ac.jp)

# KONAN

## 平成30年度 事業報告書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで





学校法人甲南学園  
理事長 吉沢 英成

甲南大学、甲南高等学校・中学校を設置する甲南学園は、大正8(1919)年の旧制甲南中学校の開設にさかのぼります。甲南を支える大きな精神的支柱である創立者の平生鈞三郎は、

本校ハ学校教育ノ現状ニ満足セザル有志ノ者共ガ集マツテ、知育偏重ノ弊ヲ避ケ、「人格ノ修養」「健康ノ増進」ヲ第一義トシ、「個性ヲ尊重シテ天賦ノ特性ヲ啓発スベク、知的教育ヲ施サン」トノ主旨ヲ以テ創立イタシマシタ

高等学校第1回卒業式／大正15(1926)年

と述べています。本学園は、今後も、この気概と品格ある平生精神をもとに、教育・研究の質を高め、本学園の社会的使命を達成することを目指しています。

## はじめに

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

本学園の平成30年度(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)の事業の概況をご報告申し上げます。

本年度は学園創立100周年目を迎え、甲南新世紀元年へとつなげる年となりました。

わが国の少子高齢化、Society 5.0と呼ばれる技術革新が急速に進む一方、世界の政治・経済・社会・自然環境は混迷・混沌の度を増す状況にあります。これを受けて国の教育政策は矢継ぎ早に、そしてさまざまに打ち出されています。その中で法科大学院の募集停止(令和2年以降)で対応することも含め、この100年掲げてきた人格の修養・健康の増進・個性尊重の知的教育からなる「人物教育率先」をどのように実現していくのかの地歩を固める年となりました。

甲南教育のこの理念の実現をはかるべく、現代版のメッセージとして、大学はミディアムサイズの総合大学を掲げ、広がりのある質の高い学びを目指し、さまざまな融合を生み出すキャンパスの実現に取り組んでいます。教学新機軸の展開、なかでも共通教育改革の推進で大きな成果があらわれつつあり、また革新的な融合の試みであるKONANプレミア・プロジェクトでも、分野・領域・地域・国境をクロスする多様なパフォーマンスをもたらしています。それらの総合的成果として志願者数も大きく伸びました(前年度比116%)。また高等学校・中学校にあっては2コース制が定着し、生徒の将来を見据えた実践的グローバル教育・サイエンス教育、プロジェクトが行われ、学びに集い、正志く強く、共に成長する場となっています。

甲南学園は、令和元年度を甲南新世紀教育の更なる飛躍のための元年とし、KONAN Higher Quality教育の展開を主軸に力強く教育・研究活動を推進してまいります。

## 甲南学園のあゆみ

個性尊重の理念を掲げて開学。  
100年間にわたり、「人物教育」を徹底的に志向しつづけています。



創立者  
平生 鈞三郎

教育理念として、「人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重し、各人の天賦の特性を伸張させる」を掲げ、甲南中学校、さらに7年制の甲南高等学校を創立しました。

大正 7(1918)	財団法人甲南学園 私立甲南中学校設立認可
大正 8(1919)	私立甲南中学校開校
大正12(1923)	7年制甲南高等学校開校
昭和23(1948)	新制甲南高等学校に移行
昭和26(1951)	甲南大学設置認可、甲南大学開学、 文理学部設置
昭和27(1952)	経済学部増設
昭和32(1957)	文理学部を文学部と理学部に分離
昭和35(1960)	法学部・経営学部増設
昭和38(1963)	甲南高等学校・中学校が岡本から芦屋市に移転
昭和39(1964)	大学院人文科学研究科、自然科学研究科設置
昭和40(1965)	大学院社会科学研究科増設
平成 3(1991)	トゥレーヌ甲南学園(フランス甲南学園トゥレーヌに校名変更)高等部・中等部を開校
平成13(2001)	理学部を理工学部に変更
平成14(2002)	経済学部・経営学部EBA総合コースを開設(平成25年廃止)
平成15(2003)	先端生命工学研究所(FIBER)設置
平成16(2004)	大学院法学研究科(法科大学院)増設
平成18(2006)	大学院ビジネス研究科(会計大学院)増設 (平成25年会計専門職専攻として社会科学研究科のもとへ移設、平成28年廃止)
平成20(2008)	知能情報学部増設
平成21(2009)	マネジメント創造学部増設(西宮キャンパス新設) 先端生命工学研究所移設・フロンティアサイエンス学部・同研究科増設(ポートアイランド キャンパス新設) フランス甲南学園トゥレーヌ中等部閉校
平成25(2013)	フランス甲南学園トゥレーヌ高等部閉校



## 甲南学園の構成

設置する学校・研究科等(平成31年3月31日現在)

### 甲南大学・大学院

学部 学科	文学部	■ 日本語日本文学科 ■ 社会学科 ■ 歴史文化学科	■ 英語英米文学科 ■ 人間科学科
	理工学部	■ 物理学科 ■ 機能分子化学科	■ 生物学科
	経済学部	■ 経済学科	
	法学部	■ 法学科	
	経営学部	■ 経営学科	
知能情報学部	■ 知能情報学科		
マネジメント創造学部	■ マネジメント創造学科		
フロンティアサイエンス学部	■ 生命化学科		
大学院	人文科学研究科	修士課程 ■ 日本語日本文学専攻 ■ 英語英米文学専攻 ■ 応用社会学専攻 ■ 人間科学専攻	博士後期課程 ■ 日本語日本文学専攻 ■ 英語英米文学専攻 ■ 応用社会学専攻 ■ 人間科学専攻
	自然科学研究科	■ 物理学専攻 ■ 化学専攻 ■ 生物学専攻 ■ 知能情報学専攻	■ 物理学専攻 ■ 生命・機能科学専攻 ■ 知能情報学専攻
	社会科学研究科	■ 経済学専攻 ■ 経営学専攻	■ 経営学専攻
	フロンティアサイエンス研究科	■ 生命化学専攻	■ 生命化学専攻

### 専門職 大学院 センター 研究所 図書館

法学研究科	■ 法務専攻(法科大学院)
■ 国際言語文化センター ■ キャリアセンター ■ 先端生命工学研究所 ■ 国際交流センター ■ フロンティア研究推進機構 ■ ビジネス・イノベーション研究所 ■ スポーツ・健康科学教育研究センター ■ 図書館 ■ アドミッションセンター ■ 教育学習支援センター	■ カウンセリングセンター ■ 総合研究所 ■ 共通教育センター ■ 教職教育センター ■ 地域連携センター ■ 公認心理師養成センター ■ 人間科学研究所 ■ 統合ニューロバイオロジー研究所

### 甲南高等学校・中学校

## CONTENTS

学校法人甲南学園／平成30年度事業報告書

はじめに	1	II 財務の概要	13	III 法人の概要	21
■ 甲南学園のあゆみ		■ 平成30年度決算の概要		■ 名称	
■ 甲南学園の構成		■ 資金収支決算の概要		■ 法人設立の年月日	
		■ 資金収支計算書(学園総括)		■ 設置学校	
		■ 活動区分資金収支計算書(学園総括)		■ 役員	
		■ 繰越支払資金の流れ		■ 土地と建物	
		■ 事業活動収支決算の概要			
		■ 事業活動収支決算書・構成比率(学園総括)		大学・大学院・高等学校・	
		■ 事業活動収支(旧:消費収支)決算の推移(学園総括)		中学校基本データ	
		■ 平成28年度～平成30年度決算の推移		■ 学位授与	
		■ 主な施設・設備の整備状況(学園全体)		■ 留学者数	
		■ 貸借対照表		■ 入学試験状況	
		■ 財務状況の推移(学園総括)		■ 大学(学部学生)の就職状況	
		■ 財務比率の推移(学園総括)		■ 学生・生徒数	
				■ 卒業生累計数	
				■ 専任教職員数	
				■ 事務組織図	
I 事業の概要	7				
■ 大学・大学院	7				
■ 高等学校・中学校	11				
■ 法人	12				



## 01 甲南学園創立100周年記念事業・行事の推進

### ■「小磯良平作品展」の開催

平成31年3月25日から4月8日まで、学園史資料展示室において、神戸市立小磯記念美術館との共催による「小磯良平作品展」を開催いたしました。甲南学園所蔵の作品と資料7点、および小磯記念美術館所蔵の作品12点を展示し、それにあわせ4月6日には公開講座「小磯良平の芸術―“神戸イズム”の展開―」を開催。「小磯良平作品展」は会期15日間で2,851名の来場があったほか、新聞報道でも大きく取り上げられ、来場者には常設の学園史資料展示や平生鈺三郎の功績展示もご覧いただき大盛況のうちに幕を閉じました。



### ■ 甲南高等学校・中学校キャンパスの再整備

学園創立90～100周年記念甲友会館について、甲友ラウンジ（食堂）の座席増設およびAV化（プロジェクタ・スクリーン設置）等のリニューアル工事を実施しました。あわせて1階部分を改修したほか、教室棟から雨の日でも傘をささずに移動できるよう、通路屋根の設置・延長工事を実施しました。



甲友会館

### ■「平生鈺三郎日記」翻刻事業の完成

学園創立90周年記念事業として平成21年に第1巻を刊行してスタートした『平生鈺三郎日記』翻刻事業が、平成31年2月に最終巻となる第18巻を刊行して完成しました。



『平生鈺三郎日記』全18巻

### ■「平生国際科学シンポジウム」の開催

12月4日から6日まで「KONAN RESEARCH SUMMIT」（ポートアイランドキャンパス）を、1月25日から26日まで「International Symposium on the Solar Energy Materials」（岡本キャンパス）をそれぞれ開催しました。

「KONAN RESEARCH SUMMIT」では、先端生命工学研究所（FIBER）が中心となり海外7か国より世界最先端の大学・研究機関の研究者を招聘し、核酸化学などに関する研究成果の講演（8件）、フロンティアサイエンス学部・同研究科の学生・大学院生によるポスター発表が行われ、優秀な発表を行った学生が表彰されるなど、100周年を飾る活気ある国際シンポジウムとなりました。



「International Symposium on the Solar Energy Materials」では、塗布型太陽電池および光触媒水素製造の新素材研究における世界トップレベルの研究者による基調講演や、太陽エネルギーを利用する発電の研究に関する招待者講演が行われ、約70名が参加しました。大学院生によるポスター発表では、太陽エネルギー分野で活躍する研究者と学生・大学院生の間で活発な交流が行われるなど、大変有意義な国際シンポジウムとなりました。

### ■「わがくるま 星につなぐ」甲南の星奨学金制度の創設

「甲南大学“わがくるま 星につなぐ”甲南の星奨学金」は、入学後2年間で合計100～140万円の奨学金を給付する入学前予約採用型奨学金制度であり、本学への入学を強く志望する優秀な学生に向けて2020年度入学試験から募集を開始します。また、在学生対象の「甲南100周年記念栄誉特待生制度」は、従来の90周年記念の特待生制度を継承発展する形で、人物・学業が特に秀で学術、スポーツおよび国際交流等の諸分野において、顕著な成果を挙げた学部学生に対して奨励金を授与し、有為な人材育成を目的としています。

### ■ 伝記『平生鈺三郎』<昭和27年版>完全復刻

財団法人拾芳会から刊行された河合哲雄著『平生鈺三郎』（昭和27年）を復刻しました。創立100周年を迎えるにあたっての本書の復刻は、これからの本学の教育にとっても大変意義深いことです。



### ■ 募金の状況

平成27年10月から開始された学園創立100周年記念事業募金（令和2年9月30日まで）も3年6か月が経過しました。平成30年度も多方面に向けて募金依頼を実施し、卒業生、保護者をはじめ、同窓会、法人・団体の皆様からのご援助により、募金目標額20億円に対し、平成30年度末で約12億2千万円のご芳志を賜りました。平成31年4月21日の学園創立100周年記念式典を弾みとして、今後も募金目標額20億円の達成に向けた積極的な活動を継続します。

### ■ 募金計画概要

#### ● 募金対象事業

- ①甲南新世紀教育の展開『学友会館等再開発を新しい教育機能で包むKONAN INFINITY COMMONS（愛称：iCommons）建設、“顔がわかる”少人数教育・キャリア創生共通教育・融合型グローバル教育などKONAN Higher Quality教育の確立』
- ②甲南大学白川台キャンパス セミナー・スポーツ施設拡充事業
- ③高等学校・中学校 100周年記念グローバル教育推進・教育環境整備事業
- ④100周年記念“わがくるま 星につなぐ”甲南の星奨学金給付事業

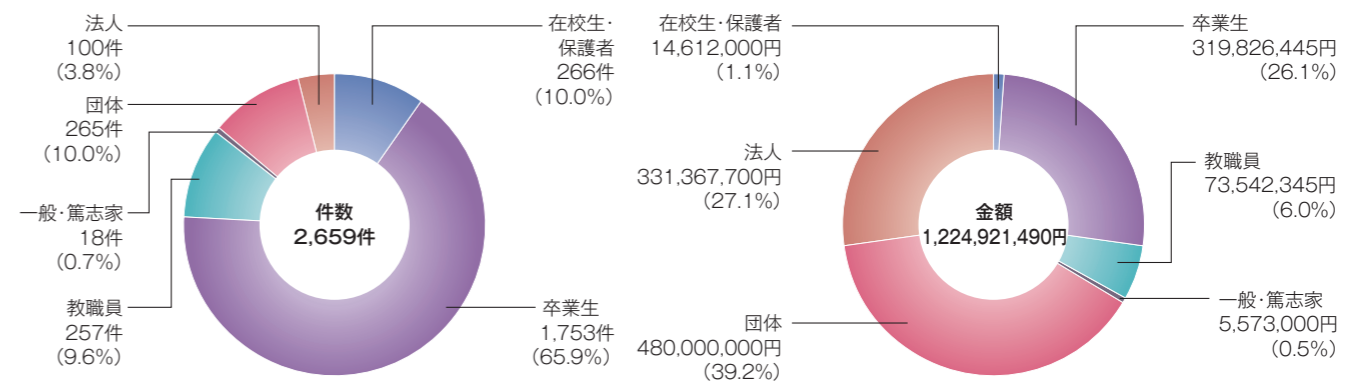
#### ● 事業規模 100億円

#### ● 募金目標額 20億円

#### ● 募金期間 平成27年10月1日～令和2年9月30日（5年間）

### ■ 募金の状況（平成31年3月31日現在）

	件数（累計：件）	件数比率	金額（累計：円）	金額比率
在校生・保護者	266	10.0%	14,612,000	1.1%
卒業生	1,753	65.9%	319,826,445	26.1%
教職員	257	9.6%	73,542,345	6.0%
一般・篤志家	18	0.7%	5,573,000	0.5%
団体	265	10.0%	480,000,000	39.2%
法人	100	3.8%	331,367,700	27.1%
合計	2,659	100.0%	1,224,921,490	100.0%



KONAN INFINITY COMMONS（平成29年9月竣工）



白川台キャンパス（平成30年3月完成）

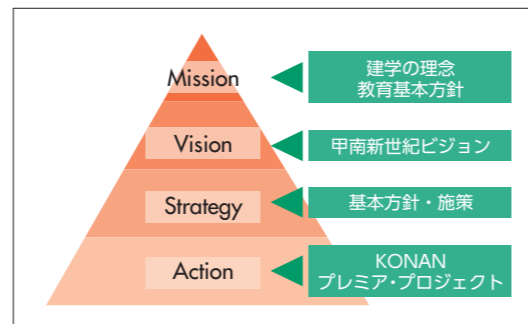
## 02 甲南大学の教育改革

### ■ 教学新機軸の推進

人物教育率先の理念をより高いレベルで実践し、世界に通じる研究力を教育や地域連携に積極的に生かし、新たな時代においても持続的に発展できる大学となるために、甲南教育の新たな100年を見据えた令和2年度（2020年度）の甲南大学のありたき姿として、『KONAN U.VISION 2020－甲南新世紀ビジョン－』を定めました。これ以降、以下の教学新機軸を中心に、新世紀ビジョンの実現に向けた取組を推進しています。

- (1) “顔がわかる”少人数教育の推進
- (2) アクティブ・ラーニング（能動的学習）の推進
- (3) 革新的共通教育の推進
- (4) 融合型グローバル教育の推進
- (5) 地域連携・ボランティア教育の推進

平成30年度の主な活動として、「顔がわかる”少人数教育の推進」については、「KONAN サーティファイケイト」の運営体制整備や取組の拡充を進めるとともに、「学修ポートフォリオ」のシステム化を実現しました。「革新的共通教育の推進」では、共通教育センター教員組織の充実を図り、新設・再編された「導入共通科目」「基礎共通科目」が始動しました。「融合型グローバル教育の推進」については、「英語集中コース」や「エリアスタディーズ」を充実させ、「地域連携・ボランティア教育の推進」については、香川県、愛媛県、高知県、鳥根県、鳥取県との就職支援協定の締結や、大阪湾を囲む4つの自治体と各市内の高校生、甲南高校生と本学大学生、教員、朝日新聞社が協働して持続可能な課題解決策を探る「関西湾岸SDGsチャレンジ」を実施しました。このほかにも「新世紀ビジョン」の実現に向けたさまざまな取組が推進されています。



関西湾岸SDGsチャレンジ



SaLaCo

### ■ Active-Interactiveキャンパスの整備、魅力化の推進

iCommonsは、学生生活の拠点としてだけでなく、学生・教職員、地域住民や卒業生をはじめとする多様な人々が融合するキャンパスの結節点として一層活用が進んでいます。また、平成28年度に理工学部のある7号館の一角に設置されたサイエンス・ラーニングcommonsを拡張、同エリアをSaLaCo (Science Active Learning Commons) と命名し、理工系のアクティブ・ラーニング推進の場となっています。さらに、iCommonsに移転した学生部の跡地に5つの教育系センター事務室が集約され、隣接する教務部を含め「教務系オフィス」として整備、同じくキャリアセンター跡地（5号館1階）には平成30年度に改組されたアドミッションセンターが移転し、開かれた環境のもとで高大接続などの新たな取組も積極的に推進されています。

### ■ 教育改革の基盤整備（内部質保証システムを構築・運用）

第3期認証評価の受審に向けて令和元年度に自己点検・評価報告書を作成することに備え、新たに制定された「甲南大学内部質保証規程」に基づく内部質保証活動を実践しました。毎年度設定する「活動目標と方針」に対する指標の設定や、教学アドバイザー・ボードによる外部評価も含めた検証の実施など、内部質保証のPDCAサイクルを確立し、大学教育の質保証をより確かなものにする内部質保証システムの整備を推進しています。また、社会で必要とされる汎用的能力を測る「ジェネリックスキル測定」の実施、教育活動や正課以外の活動をはじめとする各種データを分析可能なかたちで可視化する「IRレポート」のシステム化にも取り組んでいます。

### ■ KONANプレミア・プロジェクトの推進

KONANプレミア・プロジェクトは、全学および各学部、研究科、センター等の特色ある方針・計画を実践・可視化するとともに、これらを組織横断的に融合し、本学の新たな魅力を創出することを目的としています。平成30年度で第4期目を迎え、9つのプロジェクトのもとに68のサブプロジェクトを展開しました。これらの活動は、各学部・センターの学びの一層の特色化・魅力化や、地域連携、グロー

バル、スポーツ・健康、キャリア等の各種教育活動の活性化、学生の主体的な学びの促進、研究成果の教育への活用、さらには教育の基盤整備に至る幅広い分野に及び、本学を活性化するさまざまな成果を生み出しています。

## 03 高等学校・中学校の取組

「フロントランナー・コース」「アドバンスト・コース」は5年目を迎えました。

「フロントランナー・コース」では、これまで年度末に新高校1年生・新高校2年生を対象に実施していた学習合宿を、新高校3年生においても実施し、学びの集団化を図りました。また、従来の中学2～3年生にかけて理系の素養や国際舞台で通用する力を養うことを目的とした「サイエンスラボ」「グローバルラボ」に加えて、海外研修プログラム「サイエンスツアー」を新設し、フロリダ工科大学、NASAを訪問し、理系英語の語学研修、大学の研究室訪問、フィールドワーク、そしてNASAの各施設見学を行いました。高校2年生の理系では、新たに物理・化学・生物の分野で「ハイレベル・サイエンスラボ」を実施し、理系の資質を高めました。

「アドバンスト・コース」では、高校1～2年生を対象にビジネスリーダー育成に向けた「キャリアデザイン」を配置し、キャリアについての基礎を学ぶとともに、OB企業訪問や有識者による講演を実施しました。グローバル・スタディ・プログラムでは、第1回グローバル・リサーチ・フェアを開催し、高校2年生は個人研究の発表を、高校1年生はポスターセッションでの発表を行いました。

また、全校生徒を対象に各界の第一線で活躍されている著名人を招聘した「ソフィア講演会」による人物教育を実施しました。6月には、国連食糧農業機関（FAO）親善大使、元NHKキャスター国谷裕子氏より「新しいモノサシで考える～今伝えたいSDGs」という演題でご講演いただき、9月にはいけばな小原流五世家元の小原宏貴氏より「花をいかすころ 生命の輝きにふれて」という演題で人生観を学びました。



サイエンスツアー



キャリアデザイン 辰馬本家酒造株式会社 訪問



いけばな小原流五世家元 小原宏貴氏

## 04 戦略事業の展開

### ■ 先端生命工学研究所（FIBER）の第Ⅱ期プロジェクト5年目の研究推進

平成26年度に開始した第Ⅱ期プロジェクトでは、「FIBER第Ⅱ期計画」に基づき、文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」（平成26年度から5年間）、「科学研究費助成事業 新学術領域研究」（平成29年度から5年間）および「国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B）」（平成30年度から3年間））に採択された研究を国内外の機関と連携し推進しました。核酸にフォーカスし、先制核酸医工学や創薬等に应用、活用できる成果を生むことを目指した研究成果は、世界的な学術雑誌に多く掲載され、国際会議やシンポジウムで招待講演を受けるなど、国内外で高く評価されました。所長の杉本直己教授が核酸分野での最高級賞「The Imbach-Townsend Award」を受賞したほか、建石寿枝講師は日本化学会「第7回女性化学者奨励賞」を受賞しています。

さらに、研究成果の還元としては、女性研究者にフォーカスした一般公開講演会や大学院生・学部生、中学生・高校生等、幅広い世代を対象にした講演会・実験教室などを多数開催しました。加えて「学術交易拠点としてのKONAN FIBER」の国際的プレゼンスを通し、「核酸化学はKONAN FIBER」という研究ブランドを確立しています。

### ■ 法科大学院の第3期プロジェクト5年目の取組

司法試験予備試験が定着し、司法試験合格者数の縮減（3,000名目標から1,500名へ）など制度環境が厳しさを増すなか、13回目となる平成30年司法試験で6名が合格。これまでに現役院生ながら予備試験に合格し司法試験にも合格した4名と法科大学院修了資格での合格者132名との総合計は136名となりました。これらは「昼夜開講・秋入学」、ICTを活用した「テレビ会議システム」により、岡本教室の夜間授業を西宮キャンパス（CUBE）で受講できる「西宮教室」、密度の高い指導体制の構築など、10数年にわたる甲南法科大学院独自の献身的努力の成果と言えます。

# I 事業の概要

## 大学・大学院

### 1 教育

#### (1) “顔がわかる”少人数教育の推進 【教学新機軸(1)】

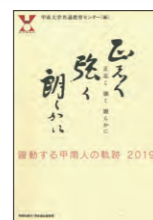
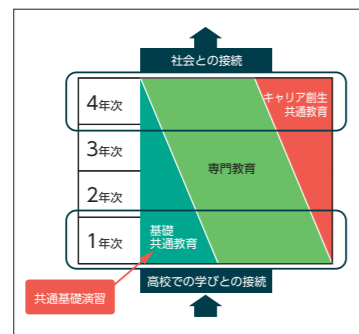
大規模授業の少人数化などの授業規模最適化を推進。学生個人の学びや活動を可視化する「学修ポートフォリオ」のシステム化を実現。成績評価に表れにくい学生の力を評価認定する「KONANサーティフィケート」制度では、64名（前年度比42%増）の学生を評価認定、新たに「KONAN ラーニングサポートサーティフィケート」を加え合計5分野に発展。

#### (2) アクティブ・ラーニング(能動的学習)の推進 【教学新機軸(2)】

学生によるラーニング・アシスタント(LA)制度を活用し、グループワークにおけるファシリテーションやライティング・サポートを充実。LAの育成等の支援体制整備によりアクティブ・ラーニングを活性化。教育の質的向上をはかるため、ラーニング・コモンズなど能動的学習を促進・支援する環境・機能を充実・整備。

#### (3) 革新的共通教育の推進【教学新機軸(3)】

共通教育センター教員組織を充実。「徳・体・知」のバランスの取れた教養を身につけるための「基礎共通科目」に、専門教育に必要な基礎力と応用力を培う科目や、スポーツ・健康科学教育研究センターによる科目を新設。「キャリア創生共通科目」には「共通応用演習」(3年次配当)を新設、社会との接続教育の体制を拡充。「導入共通科目」の参考書として『躍動する甲南人の軌跡2019』を発行。



#### (4) 融合型グローバル教育の推進【教学新機軸(4)】

授業におけるGlobal Zoneのより効果的な活用方法を検討・実現。学部・学科の特性に応じた留学ガイダンスを実施するなど、融合型グローバル教育への導入をきめ細やかに実施。短期留学プログラム「エアスタディーズ」に新コースを設置、過去最高となる175名が利用。入学生のグローバル化への意識向上を目的として合格者および保護者対象の説明会を実施、グローバル人材育成のための基盤強化を図ったほか、学生の希望に基づきクラスを増設する等、留学のための英語集中コースを拡充・強化。



Global Zone

#### (5) 地域連携・ボランティア教育の推進 【教学新機軸(5)】

学生による地域連携やボランティアの諸活動を、明確に正課・課外の教育として位置付けて展開。香川県、愛媛県、高知県、島根県、鳥取県との地域連携を含めたUIJターンのサポートを推進する就職支援協定を締結。広島県三原市とは「観光戦略プラン企画立案プロジェクト」などの学生プロジェクトを推進。神戸新聞社・加古川市役所との連携による「加古川『知』を結ぶプロジェクト」を継続展開。



加古川『知』を結ぶプロジェクト

#### (6) 教員養成体制のさらなる充実

教育職員免許法改正に伴い教職課程再課程認定を申請。全課程が認定され、再編後の教職課程の適切な運営に向けた準備を推進。教員採用試験には、対策を充実させた結果22名が現役合格。

#### (7) 公認心理師養成カリキュラムの開始と大学院推薦入学協定の締結

公認心理師法の成立・施行に伴い公認心理師養成に関する科目を新設したほか、新たに開設した公認心理師養成センターを中心に教育・研究、および公認心理師を志望する学生・卒業生の支援を推進。鳴門教育大学および兵庫教育大学との包括協力協定を締結し、本学学生の両大学大学院公認心理師養成課程への推薦入学制度を整備。

#### (8) FD活動等による教育力強化と学習支援体制の充実

学内教員によるワークショップ、教員間の授業参観、意見交換のほか、内部質保証システムの確立と連動したFD・SD講演会などのFD活動を推進。上級生が下級生の学習を多面的にサポートするTIL (Teaching is Learning) 制度を充実。ラーニング・コモンズにおいて学生の学びを支援する学習支援デスクを開設。

#### (9) 内部質保証の体制確立と実践

令和2年度の第3期認証評価受審に向け「甲南大学内部質保証規程」を整備、全学内部質保証委員会を中心とした内部質保証体制を確立。学修ポートフォリオ、ジェネリックスキル測定、IRレポート等の活用や外部評価体制の整備等を組み込み、これらによる内部質保証PDCAサイクルの実践活動を試行。期中検証による全学内部質保証委員会提言を踏まえて各種改善を実施。

#### (10) 各種補助金制度への対応強化

私立大学等改革総合支援事業への対応を強化。全学的な体制での教育の質的転換を支援するタイプ1「教育の質的転換」(3年連続)、地域におけるプラットフォームを通じた複数大学間や自治体・産業界等との連携を支援するタイプ5「プラットフォーム形成(発展型I)」(2年連続)が採択。経常費補助金特別補助においても本学の事業内容や計画・方針に適合する項目へ申請、各種補助金を獲得。

### 2 研究

#### (1) 学内の各種研究助成による研究支援

「平生太郎基金」「伊藤忠兵衛基金」「甲南学園教育・研究基金」等の運用果実を活用した研究・出版・外国人研究者招聘等への助成。

##### ① 平生太郎基金科学研究奨励助成

申請者	研究課題	助成金額(千円)
日下部 岳広 理工学部生物学科 教授 (発生生物学)	動物の体はいかにして複雑化してきたかー細胞分業による器官進化と進化生命工学への応用ー	7,000
久原 篤 理工学部生物学科 教授 (分子神経遺伝学)	動物の温度適応の分子神経メカニズム	5,000
西村 いくこ 理工学部生物学科 教授 (植物分子細胞生物学)	バイオテクノロジー研究拠点形成: オルガネラ工学による有用植物の創成	12,000
後藤 彩子 理工学部生物学科 講師 (細胞生物学・生態学・昆虫学)	女王アリにおける長期間の精子貯蔵メカニズムの解明	4,500
池田 茂 理工学部機能分子化学科 教授 (光触媒・光電気化学)	太陽エネルギー変換効率の飛躍的な向上のための水分解光電極のバルク構造制御	4,000
川内 敬子 フロンティアサイエンス学部 准教授 (分子生物学・基礎医科学)	核内アクチン線維構造の制御による新たながん治療創薬への挑戦	2,500
平成30年度助成金額合計		35,000

※平生太郎基金科学研究奨励助成…学園創立者平生鈞三郎のご子息、太郎氏のご令室である故平生妻子様から遺贈を受けた財産で、科学研究(医学を含む)を奨励することを目的とした基金。平成6年度より開始された学園の研究奨励助成制度。研究助成期間は平成30年4月1日から平成31年3月31日まで。

##### ② 平生記念人文・社会科学奨励助成

申請者	研究課題	助成金額(千円)
笹倉 香奈 法学部 教授 (刑事訴訟法)	児童虐待事件における冤罪防止のための総合的研究	1,000
平成30年度助成金額合計		1,000

※平生記念人文・社会科学奨励助成…平生太郎基金の遺贈者の精神に喚起された甲南学園が、学園の資金で人文・社会科学系分野の研究を奨励する助成制度。研究助成期間は平成30年4月1日から平成31年3月31日まで。

##### ③ 伊藤忠兵衛基金出版助成

申請者	著書名	助成金額(千円)
秋元 孝文 文学部 教授 (アメリカ文学)	ドルと紙幣のアメリカ文学	600
西田 英一 法学部 教授 (法社会学)	声の法社会学	600

※昭和51年、第3代・第5代理事長伊藤忠兵衛の遺言により遺贈を受けた財産で、学術研究の出版を助成することを目的とした基金。その後、昭和57年にその他の特定基金として統合し、甲南学園教育・研究基金となり、同時に国際交流助成制度を整備した。



#### ④ 国際交流助成

外国人研究者招聘事業に7件、学生海外派遣事業に5件、合計12件906,330円を助成。

外国人研究者招聘事業では人工知能、生物学、イギリス文学、情報通信ネットワーク等の海外研究員を招聘して開催する講演会へ、学生海外派遣事業ではボードセイリングや柔道の世界大会に出場する学生へそれぞれ助成。

#### ⑤ 総合研究所

学術の進歩に寄与することを目的として、昭和59年に設置された総合研究所の下、人文・社会・自然科学の諸分野にわたる総合的な共同研究8件に対し、研究費を助成。

#### (2) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の展開

平成26年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された「核酸の非標準構造を標的とした細胞応答の化学的制御技術の構築と先制核酸医工学への展開」(先端生命工学研究所 期間:平成26年度から5年間)の研究推進。

#### (3) 研究支援の強化、コンプライアンスへの対応

各種競争的研究資金の申請から管理・執行までの一元的な支援体制の強化、産官学連携コーディネーターとの連携等による研究費獲得に向けた積極的な取組を推進。「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」に対応した体制の整備、コンプライアンス教育、研究倫理教育を推進。文部科学省による公的研究費の履行状況調査では「ガイドラインを踏まえた公的研究費の管理・監査体制の整備が進展し、コンプライアンス教育の実施、非常勤雇用者の雇用管理など、所要の対策が着実に実施されている」との総合所見を受けた。

#### (4) 研究力の可視化

フロンティア研究推進機構(FRONT)のWEBページ「甲南大学の研究力」を充実。高品質な科学論文を効率的に発表している大学として『Nature Index2018 Japan』で国内第3位にランクされたことなど、数値で訴求可能な実績もアピールし、本学の研究に関するアクティビティの可視化を推進。研究力のアピールとブランディングを目的とし、統合ニューロバイオロジーの紹介動画をYouTubeなどで紹介するなど、広く社会に向けて情報を発信。

### 3 学生支援活動

#### (1) 学生生活の支援

学生マナーアップを推進、学生の健康保持・増進に向けた取組を実施、学生生活アンケートを実施し、学生生活の改善・充実に向けた取組を推進、課外活動の活性化支援(スポーツ応援ツアー、iStaff活動等)を実施。

#### (2) 障がい学生の支援

YOUステーションを中心とした障がい学生支援を実施、学生ボランティア養成講座の実施、学生ボランティア活動支援・障がいに対する理解・啓発活動の推進。

# I 事業の概要

## (3) キャリア形成・就職支援

個々の学生の状況に応じたサポートと質の高い進路支援を実施。「夏休み就活先取り体感ツアー in TOKYO」、「業界・企業研究講座in TOKYO」の改変・充実。多様化する就職試験への対策を強化。増加傾向にある公務員志望者への支援を充実。中四国地域をはじめとする地方自治体との就職支援連携協定の拡大によるUIJターンへの対応を強化。

## (4) 甲南アスリートサポートプログラム(KASP)の実施

体育会所属の学生に向けた修学・キャリア等の支援と、その他実効性あるサポートプログラムの提供。

## (5) 新しい奨学金制度の検討

学園創立100周年記念“わがくるま 星につなぐ”甲南の星奨学金給付制度を創設（3ページ参照）。

## (6) 保護者との関係強化

「教育懇談会」において大学概要説明、キャリアセンター講演会、各学部・学科紹介、教員との懇談および個別相談等を実施。（岡本キャンパス・名古屋市・広島市・高松市各1回 参加者合計1,050名）

### 一父母の会による支援一

甲南大学父母の会が、学生の自主性を高め、その成長を促す取組を支援する制度により、本年度も9件実施。

## (4) 産官学連携の推進

産業界・官公庁等との連携を強化し、本学の研究力や知的資産を積極的に活用。

	件数	金額（千円）
受託研究	18件	86,875
共同研究	48件	32,622
奨学寄附金	37件	40,694

## (5) 小学校・中学校・高等学校の児童・生徒等に向けた取組

「甲南大学キッズフェスティバル」「科学とあそび！2018」のほか、「ひらめき☆ときめきサイエンス（独立行政法人日本学術振興会）」の一環として「ミクロの忍術使い『細胞』の秘密をさぐる（統合ニューロバイオロジー研究所）」、「分子の世界でナノ工作体験！～タンパク質のような働きをするDNAを作ろう～（先端生命工学研究所）」を開催。



キッズフェスティバル



科学とあそび！2018

## (6) 教員免許更新制における免許状更新講習の実施

現場教員にとって必要な免許状更新講習を実施。

## (7) 生涯学習支援

公開講座「身近にあって知らない科学」や「『いざ』という時のトラウマ&ストレス対策塾」、またパソコン教室・パドミントン教室などを開催。白川台キャンパスにおいても公開講演会を複数回開催するなど、本学の研究成果を積極的に還元。

## 5 高大接続・学生募集・入学試験にかかる活動

### (1) アドミッションセンターの設置

アドミッションポリシーに則した学生の募集・選抜および高大接続を担い、これらを一体的・効果的に実行するための新しい組織「アドミッションセンター」を設置。

### (2) 入試制度改革の推進

高大接続一体改革を踏まえ2021年度に向けた入試制度改革の検討を推進。10月26日には2021年度入試の実施方針についての予告を、3月29日には2021年度一般選抜および総合型選抜の実施概要を、それぞれ公表。

### (3) 学生募集活動の強化

各種データの活用による戦略的な広報展開。iCommonsの活用などによるオープンキャンパス等各種イベントの一層の魅力化。

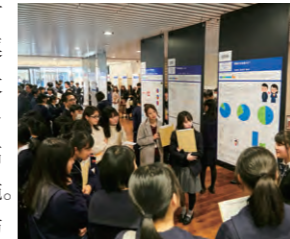
大学案内と受験生向け情報サイト『甲南Ch.』の充実と活用。



『KONAN DATA BOOK』『KONAN DIGEST』による特色や魅力の発信力強化。

## (4) 高大接続の強化

全学的な高大接続活動の検討等を行う「高大接続推進企画運営委員会」を設置。高校生と大学生が融合して行う「リサーチフェスタ」など研究発表型の高大接続プログラムを開発・実施。高大接続推進委員による高校訪問活動等の充実・発展。



## (5) 指定校・協定校・系列校との連携強化

協定校・指定校等の重点校との関係強化に向けたコミュニケーションの充実。甲南高校生対象「KONAN DAY」「甲南高等学校-甲南大学 引継式」の継続実施。

## 6 環境整備

### (1) 全学共通教育系事務室の集約と体制整備

公認心理師養成センター、および全学部にかかる教育（言語・スポーツ・共通教育・教職課程）を担う事務室を集約し、実効性のある体制に整備。教務部等関連部局とそれらとの連携強化による学生サービスの向上。

### (2) 教育環境・情報インフラの整備

サイエンス・ラーニング commons の2期工事として、7号館1階に新たなアクティブラーニングエリア（SaLaCo-West）を整備。iCommonsにおいては、施設の利用状況を踏まえ、Agora音響設備の増設、Union P、Union Lの家具増設およびUnion P1~3にプロジェクトを設置。

### (3) 阪神淡路大震災以降に更新された施設・設備の再整備

アドミッションセンターをアクセスしやすい5号館1階に移設。老朽化した5号館、9号館および平生記念セミナーハウスの空調設備を更新。バリアフリー推進のため、5号館北側出入口自動扉化工事を実施。同館エントランス照度改善および3号館3階講義室（7室）の照明LED化工事を実施。

### (4) 安心・安全なキャンパスづくりの推進

台風による倒木防止対策として、岡本キャンパスの大木をワイヤーにて固定。六甲アイランド総合体育施設の野球場防球ネットのかさ上げを実施するとともに老朽化した剣道場の床の張替えを実施。

## 7 課外活動

### (1) 各種助成金の支給

スポーツ強化支援「強化指定団体制度」に基づく、強化指定団体（11団体）を対象とした「重点強化助成」を交付。助

成額の査定は各部からの申請書とプレゼンテーションを基に実施。その他体育会クラブを対象とした「活性化助成」「振興助成」による指導者招聘のための助成金を交付。

## (2) 各種イベントの実施

体育会・文化会における各種キャンプの実施、指導者・学生を対象とした課外活動安全講習会の実施、スポーツ応援ツアーの実施、iCommonsを活用した文化会の展示・発表会の開催、体育会大運動会の実施。

## (3) 主な活動成果(金甲賞 受賞クラブ)

※金甲賞は甲南大学父母の会創立40周年を記念し、学生の課外活動を活性化することを目的として平成6年に設けられた表彰制度。

### 体育会フィギュアスケート部(個人)

第91回日本学生氷上競技選手権大会	優勝
ISUグランプリシリーズインターナショナル オプフランス	準優勝
ISUグランプリシリーズNHK杯	第4位

### 体育会ヨット部

関西学生ヨット春季選手権大会（団体）470級・スナイプ級・総合	優勝
第27回全日本学生女子ヨット選手権大会	第6位



### 体育会女子陸上競技部

2018日本学生陸上競技個人選手権大会女子400mH	第2位
2018オールスターナイト陸上秩父宮賜杯第58回実業団・学生対抗陸上競技大会女子100m	第2位

### 体育会ボードセイリング部(個人)

2018Techno293 Japan Cup 世界選手権出場選抜	準優勝
2018Techno293 world championships	出場



### 任意団体 和太鼓 甲(個人)

太鼓祭inソニックシティ2018	第10回日本一決定戦
大太鼓の部	優勝



# I 事業の概要

## 高等学校・中学校

### 1 教育

#### 平生精神をバックボーンとする甲南一貫教育の実現

- ・フロントランナー・コースの中学2年・3年生を対象とした「サイエンスラボ」「グローバルラボ」の実施。
- ・中学3年生を対象に社会で活躍されている卒業生を招聘した「OBワークショップ」の実施。
- ・アドバンスト・コースの高校1年・2年生を対象に「志厚き有為の材幹」の育成に資する「キャリアデザイン」を配置し、OB企業訪問や有識者による講演会を実施。
- ・フロントランナー・コース理系の高校2年生を対象とした「ハイレベル・サイエンスラボ」の実施。
- ・「KONAN DAY」「甲南高等学校-甲南大学 引継式」「特色プログラム」等による甲南大学との高大接続の強化。
- ・甲南小学校・甲南女子中高・甲南大学との連携による環境学習および学習成果発表会の実施。

### 2 学習活動・学校生活の支援活動(進路支援活動含む)

#### 学習環境の整備、学力向上、徳育の強化

- ・集団行動や学校生活等に順応するための中学1年生へのオリエンテーション、高校1年生の校外学習を実施。
- ・教育支援システム「Classi」による学習サポート・進路指導等を強化。
- ・ネイティブ教員が中心となってプログラムする「English Festival」や「English Day」の実施。
- ・デジタル教科書を利用し、授業のICT化を図るとともにアクティブ・ラーニングを推進。

### 3 グローバル・スタディ・プログラムの充実

#### 国際コミュニケーション力の向上

- ・「グローバル・スタディ・プログラム」の一環として、高校2年生を対象に国際人育成に向けた海外留学の実施。
- ・「グローバル・ファウンデーション」の一環として、高校1年生・中学3年生を対象に甲南大学白川台キャンパスでの「スプリングセミナー」および希望者によるオーストラリア語学研修を実施。
- ・東南アジアの代表的工業国であるタイへのスタディツアーを実施。
- ・「グローバル・リサーチ・フェア」を開催。生徒による研究発表を実施。

### 4 生徒募集・入学試験にかかる活動

甲南教育の魅力を校内外に伝える様々な説明会を実施。

### 5 進路状況

それぞれのコースの特性を活かし、一人ひとりの適性や個性に応じて自己の進路を確立。内部推薦で約5割が甲南大学へ進学。他の約5割は国立大学、首都圏・関西等の医歯薬系も含めた私立大学に加え、海外の大学にも進学。

### 6 環境整備

- ・安心安全のための施設・設備の整備。
- ・省エネルギー対策としてLED化の実施。
- ・校内Wi-Fi化を実施。

### 7 課外活動

#### 主な活動成果

##### <高等学校>

- アーチェリー部：全国高等学校総合体育大会団体4位・個人3位  
弓道部：全国高等学校弓道大会兵庫県予選個人2位  
全国選抜弓道大会出場  
近畿高等学校弓道選抜大会個人7位・団体準決勝出場
- ゴルフ部：兵庫県高等学校選手権大会秋季大会個人6位  
全国大会出場
- テニス部：全国選抜高等学校近畿地区大会団体3位  
全国大会出場  
近畿高等学校選抜テニス大会団体Ⅱ部準優勝
- ラグビー部：国民体育大会3位（兵庫県代表選手として出場）  
兵庫県高等学校ラグビー新人大会兼近畿大会予選3位  
近畿大会出場
- ブラスアンサンブル部：ジャパン・スチューデント・ジャズ・フェスティバル  
日本学校ジャズ教育協会会長賞（全国3位）  
国際ジャズオーケストラ・フェスティバルBest Energy Award  
芦屋市芸術文化活動表彰受賞
- 将棋部：兵庫県高等学校総合文化祭将棋部門個人優勝・準優勝 全国新人戦出場
- 書道部：高野山競書大会毎日新聞社賞

##### <中学校>

- アーチェリー部：ゴールデンエイジカップ近畿地区大会個人優勝
- ゴルフ部：兵庫県中学校選手権秋季大会個人8位  
全国大会出場
- テニス部：近畿私立中学校テニス選手権大会団体3位  
全国私学大会出場  
近畿中学校新人テニス大会団体2位  
全国選抜中学校テニス大会出場
- 馬術部：全国中学校馬術交流戦馬術部個人1位
- バスケットボール部：近畿中学生オールスターバスケットボール大会3位（兵庫県代表選手として出場）
- 陸上競技部：全国日本中学校陸上競技選手権大会個人出場
- ブラスアンサンブル部：ジャパン・スチューデント・ジャズ・フェスティバル兵庫県知事賞（全国2位）  
国際ジャズオーケストラ・フェスティバルBest Groove Award  
芦屋市芸術文化活動表彰受賞



## 法人

### 1 管理運営

#### (1) 学園の資金計画等の策定

学園創立100周年記念事業にかかる資金管理および中長期的な資金計画策定と管理体制の確立。

#### (2) 学園創立100周年記念事業募金活動

より一層の募金活動を展開し、平成30年度は約1億3千万円のご芳志を拝受。

#### (3) 教育振興のための各種寄付金の受入れ強化

高等学校・中学校保護者および卒業生等を対象とした「教育振興募金」に4,527万円、大学の体育会指定クラブを受入対象とした「スポーツ教育力強化支援寄付金」に325万円のご芳志を拝受。

#### (4) リスク管理、労務・法務管理体制の強化

契約審査、法務相談、学内規程の整備体制を強化。特定個人情報を含めた個人情報保護体制を定着化。

#### (5) 安定的な職員組織の構築、適正な人件費配分、快適な職場環境の維持・強化

全体最適の視点に基づく配置とアウトソーシングの活用により安定的な職員組織を構築。ワーク・ライフ・バランスの実現に向け半日年次休暇の取得限度を撤廃、リフレッシュ休暇を導入。オープンキャンパス時の臨時託児所の開設等、働きやすい職場環境づくりを推進。

#### (6) 情報システムの整備

快適・安全な教育環境の整備に向けた、情報端末の設置・更新および管理システムの再構築。教員用メールシステムのクラウド化、災害発生時を想定したバックアップポリシーの策定。

#### (7) 安心・安全なキャンパスづくりの推進

大阪府北部地震を受け、ブロック塀の点検を実施するとともに再整備計画を策定。3年計画の1年目として、岡本キャンパス5号館南側通路のブロック塀を撤去するとともに岡本キャンパス、中高テニスコート・プール敷地において、公道に面したブロック塀をフェンスに再整備。

### 2 広報活動・卒業生との連携

#### (1) 学園創立100周年記念事業の広報

昨年度に引き続き、100年の時を経ても色あせることなく、永久に光り輝く甲南学園でありつづける決意を「百世不磨（ひやくせいふま）」の言葉に託し、積極的な広報活動を展開。また学内外の祝賀ムードを醸成すべく神戸新聞での365日前・300日前・200日前・100日前・50日前のカウントダウン広告のほか、読売新聞には30段広告を掲出。



朝日新聞「百世不磨」連載広告

#### (2) 広報活動の充実・ブランド強化

甲南学園の現状を伝える広報誌「KONAN TODAY」を2回発行し、冊子媒体のほかホームページ上でも公開。その他、学生・生徒・保護者・同窓会・地域等との連携による「オール甲南」体制を構築し、定期刊行物、WEB広報ツールを充実化。



#### (3) スポーツ・芸術活動への協賛

地域貢献や青少年の育成を目的として、兵庫県立芸術文化センター、ヴィッセル神戸、堺ブレイザーズ、西宮ストークスをはじめとする地域性の高い諸団体への支援を継続実施。世界的指揮者の佐渡裕氏が率いる「佐渡裕とスーパーキッズ・オーケストラ」による東日本大震災の復興祈念活動に本学学生が同行し、現地での活動支援を実施。

#### (4) 入学宣誓式に卒業生を招待

学園創立100周年記念事業の一環として、4月2日の甲南大学入学宣誓式に大学8～11期生（S37～S40卒業）を招待。73名が参列し、甲南大学68期生となる新入生を祝福。入学宣誓式の後には、甲南大学同窓会主催による昼食会を開催。

#### (5) 「オール甲南の集い」を開催

10月21日に「オール甲南の集い」を同窓会と共催で開催。卒業生で能楽小鼓方大倉流十六世宗家の大倉源次郎氏による囃子公演・経営者による講演・学生活動成果発表・模擬裁判・交流会等の各種イベントを実施。1,100名を超える卒業生が参加。



#### (6) 「甲南×岡本 梅と文化の花結日」を開催

地域や卒業生へ向けた文化イベントとして3月3日に開催。100周年の節目に華を添える「いけばな」と「音楽」をテーマに、卒業生の肥原慶甫氏（未生流家元 十世未生斎）による「いけばなライブ」のほか、ヴァイオリンによるコンサートや岡本梅林公園ツアー等を実施。約300名が参加。



# Ⅱ 財務の概要

## Ⅰ平成30年度決算の概要

学園創立100周年を平成31年4月に控え、教育・施設設備の両面に渡り、整備・充実を進めた1年でした。大学では教学新機軸を推進し、KONANプレミア・プロジェクトをPDCAのサイクルで検証することで、より内容の濃い活動を実施しました。また白川台キャンパスの開設を受け、広野校地を売却し、資産の選択と集中を実施。今年度はその財務処理を行いました(土地は基本金を取崩しました)。創立100周年記念事業として取得した先述の白川台キャンパスや昨年度に竣工したiCommonsは期待以上に活用されています。国際教育を含む基礎共通科目の充実、大学改革を支える職員の補充にも投資しました。また高中ではコース制や理系の素養・国際舞台で活躍する素養を養う各種ラボを展開。甲友会館を改修し、Wi-Fi化も進めることで、教育学習環境の整備に努めるとともに、ブロック塀の撤去など安全面に留意した投資も行いました。

なお、創立100周年記念行事を控え、予備費は例年より多い3億80百万円を予算化しましたが、最終的には2億92百万円を執行し、事業活動収支ベースでは多額の執行残を計上することとなり、支出が減少しました。

ストック面の具体的な数字は貸借対照表(18ページ)のとおりです。昨年度、iCommonsをはじめ創立100周年記念事業で計画している諸施設に投資する際、償却引当特定資産を多く充当しました。そこで同資産を積み増し、償却引当預金率を高めました。また給付制奨学金の基金となる第3号基本金引当特定資産への積立も継続しました。

以下、各決算数字をご説明します。

## Ⅰ資金収支計算書(学園総括) 平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位:千円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	11,209,783	11,214,569	△ 4,786	人件費支出	7,761,594	7,845,305	△ 83,711
手数料収入	660,375	662,304	△ 1,929	教育研究経費支出	3,348,922	3,334,852	14,070
寄付金収入	336,695	369,380	△ 32,685	管理経費支出	735,136	719,301	15,835
補助金収入	1,143,746	1,156,828	△ 13,082	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	150,400	150,400	0	借入金等返済支出	0	0	0
付随事業・収益事業収入	155,719	158,498	△ 2,779	施設関係支出	1,044,432	876,751	167,681
受取利息・配当金収入	342,652	344,357	△ 1,705	設備関係支出	287,330	434,344	△ 147,014
雑収入	312,931	388,762	△ 75,831	資産運用支出	2,948,361	4,083,898	△ 1,135,537
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	947,628	947,902	△ 274
前受金収入	1,998,802	1,904,289	94,513	予備費	(292,388)		
その他の収入	3,721,301	3,837,294	△ 115,993		87,612		87,612
資金収入調整勘定	△ 2,191,495	△ 2,237,481	45,986	資金支出調整勘定	△ 459,818	△ 695,421	235,603
前年度繰越支払資金	9,677,412	9,677,412	0	翌年度繰越支払資金	10,817,124	10,079,680	737,444
<b>収入の部合計</b>	<b>27,518,321</b>	<b>27,626,612</b>	<b>△ 108,291</b>	<b>支出の部合計</b>	<b>27,518,321</b>	<b>27,626,612</b>	<b>△ 108,291</b>

(注記) 予備費からの振替

計：292,388 (教育研究経費支出：156,371、管理経費支出：62,529、施設関係支出：57,148、設備関係支出：16,340)

## Ⅰ資金収支決算の概要

予算対比では、寄付金収入が伸びました。学園創立100周年の直前でもあり、年度末に100周年募金が増加しました。また補助金収入は高中の補助事業経費が増額したことに加え、例年以上に補助率が高く、また大学では「教育の質に係る客観的指標」が加点され、増額されました。雑収入は依頼退職者による退職金財団からの交付金収入等が増えています。

なお手数料収入は大学・高中とも志願者数を伸ばし、補正予算で増額しましたが、決算ではさらに上積みされました。「顔がわかる」少人数教育の推進(大学)、コース制の認知(高中)が浸透していると感じています。

他方、支出面では執行時段階での内容精査と相見積りでの取得を引き続き進めています。なお施設関係支出は執行内容の精査により、経費に振替えたため残額が発生し、設備関係支出では情報システムの更新の際、未払いリース分を計上する必要が生じ、予算対比で支出増が発生しました。

また学園は各性質に応じた引当特定資産を有しており、その特定資産への積増し・取崩しは「資産運用支出」「その他の収入」に計上されます。本学では経常的な資金余剰分は年度末に特定資産に繰入れることとし、それを実施したため、「資産運用支出」は予算を上回りました。

なお資金収支を3つの活動区分に分けた活動区分資金収支計算書(14ページ)では、昨年度iCommons等の建設で大きな収支を計上した「施設整備等活動」は縮小しました。他方、受取利息・配当金収入は「その他の活動」に区分されますが、例年どおり理事長・学長・校長から提案された「優秀な学生への支援」、「学園の戦略広報・スポーツ強化支援」及び「国際的に卓越した研究推進」等への財源として、主に「教育活動」に使用しました。

## Ⅰ活動区分資金収支計算書(学園総括) 平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位:千円)

(注記) 調整勘定の計算 (単位:千円)

科目	金額
収入	
学生生徒等納付金収入	11,214,569
手数料収入	662,304
特別寄付金収入	153,086
経常費等補助金収入	1,125,269
付随事業収入	158,178
雑収入	388,762
教育活動資金収入計	13,702,168
支出	
人件費支出	7,845,305
教育研究経費支出	3,334,852
管理経費支出	719,301
教育活動資金支出計	11,899,458
差調整勘定引	1,802,710
調整勘定等	△ 62,485
教育活動資金収支差額	1,740,225

科目	金額
収入	
施設設備寄付金収入	216,294
施設設備補助金収入	31,559
施設設備売却収入	150,400
第2号基本金引当特定資産取崩収入	0
償却引当特定資産取崩収入	1,312,704
理系学部設備充実費引当特定資産取崩収入	29,567
施設整備等活動資金収入計	1,740,524
支出	
施設関係支出	876,751
設備関係支出	434,344
第2号基本金引当特定資産繰入支出	0
償却引当特定資産繰入支出	2,343,073
理系学部設備充実費引当特定資産繰入支出	43,160
施設整備等活動資金支出計	3,697,328
差調整勘定引	△ 1,956,804
調整勘定等	550,393
施設整備等活動資金収支差額	△ 1,406,411
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	333,814

科目	金額
収入	
借入金等収入	0
第3号基本金引当特定資産取崩収入	0
退職給与引当特定資産取崩収入	692,528
大学教育・研究環境整備充実引当特定資産取崩収入	396,675
大学将来計画準備引当特定資産取崩収入	419,014
平生太郎基金引当特定資産取崩収入	41,088
岡崎一雄基金引当特定資産取崩収入	4,800
中高教育充実引当特定資産取崩収入	0
貸付金回収収入	52,232
預り金受入収入	198,892
仮払金受入収入	64
立替金受入収入	3,085
敷金・保証金回収収入	102
小計	1,808,480
支出	
受取利息・配当金収入	344,357
収益事業収入	320
その他の活動資金収入計	2,153,157
借入金等返済支出	0
第3号基本金引当特定資産繰入支出	53,067
退職給与引当特定資産繰入支出	687,066
大学教育・研究環境整備充実引当特定資産繰入支出	400,000
大学将来計画準備引当特定資産繰入支出	400,920
平生太郎基金引当特定資産繰入支出	151,503
岡崎一雄基金引当特定資産繰入支出	5,000
八木嶺二基金引当特定資産繰入支出	0
中高教育充実引当特定資産繰入支出	0
出資金支出	109
貸付金支払支出	3,730
預り金支払支出	182,613
仮払金支払支出	695
立替金支払支出	0
敷金・保証金支払支出	0
借入金等利息支出	0
その他の活動資金支出計	1,884,703
差調整勘定引	268,454
調整勘定等	△ 200,000
その他の活動資金収支差額	68,454
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	402,268
前年度繰越支払資金	9,677,412
翌年度繰越支払資金	10,079,680

※企業会計と学校法人会計の相違につきましては、本学ホームページに記載しています。

科目	金額
収入	
前受金収入	1,904,289
前期末前受金*	△ 2,025,732
前期末未収入金収入	248,145
期末未収入金*	△ 180,637
収入計	△ 53,935
支出	
前払金支払支出	140,272
前期末前払金*	△ 142,820
前期末未払金支払支出	418,728
期末未払金*	△ 407,630
支出計	8,550
調整勘定計	△ 62,485

科目	金額
収入	
前受金収入	0
前期末前受金*	0
前期末未収入金収入	438,398
期末未収入金*	△ 31,112
収入計	407,286
支出	
前払金支払支出	0
前期末前払金*	0
前期末未払金支払支出	1,864
期末未払金*	△ 144,971
支出計	△ 143,107
調整勘定計	550,393

科目	金額
収入	
前受金収入	0
前期末前受金*	0
前期末未収入金収入	0
期末未収入金*	0
収入計	0
支出	
前払金支払支出	0
前期末前払金*	0
前期末未払金支払支出	200,000
期末未払金*	0
支出計	200,000
調整勘定計	△ 200,000

・「教育活動」: キャッシュベースで本業の教育活動の収支状況を把握できます。通常は「+」となります。  
 ・「施設整備等活動」: 当年度に施設設備の購入または売却その他これらに類する活動があったか、財源は何かを把握できます。教育活動のプラス分を施設整備にまわすため、通常は「-」となります。  
 ・「その他の活動」: 借入金の収支、資産運用の状況、収益事業にかかる活動等、主に財務活動を把握できます。教育や施設の資金を特定資産や借入金で調達していれば「+」、逆の場合や特定資産への繰入れが多ければ「-」となります。

上表の「\*」の科目、引当特定資産の取崩・繰入等が13ページの資金収支計算書(学園総括)の「資金収入(支出)調整勘定」となります。

### 《用語の説明》

**資金収支** 1年間の教育研究活動に伴う資金の収入と資金の支出を明らかにし、支払資金の期末を表すものです。  
**活動区分資金収支** 資金収支のうち、施設設備の取替更新やさらなる取得を「施設整備等活動」として取り出し、また財務活動や収益事業さらには預り金の受払い等の経過的な活動を「その他の活動」として取り出し、それ以外のものを「教育活動」として、3つの活動に分けて表すものです。

**事業活動収支** 企業会計の損益計算の仕組みを引用し、負債にならない収入(事業収入)と費用(事業支出)の内容と均衡の状態を明らかにしようとするものです。この収支は、経常的な収支のうち、財務活動(資金調達・運用)及び収益事業にかかる活動による「教育活動外収支」。また特殊要因によって一時的に発生した臨時的な活動(例: 過年度修正額、資産売却差額、資産処分差額、災害損失、さらには施設設備にかかる寄付金・補助金・現物寄付)による「特別収支」。そしてそれ以外の「教育活動外収支」に分けて、収支の均衡を表示します。

**事業活動収入** 資金収支計算書の収入の部「学生生徒等納付金収入」、「手数料収入」、「寄付金収入」、「補助金収入」、「付随事業収入」、「受取利息・配当金収入」、「雑収入」、「その他の特別収入(施設設備にかかる寄付金・補助金)」に現物寄付等を加えたもので、負債とならない正味の収入をいいます(外部からの借入金のように学校法人の負債となる収入は含まれません)。

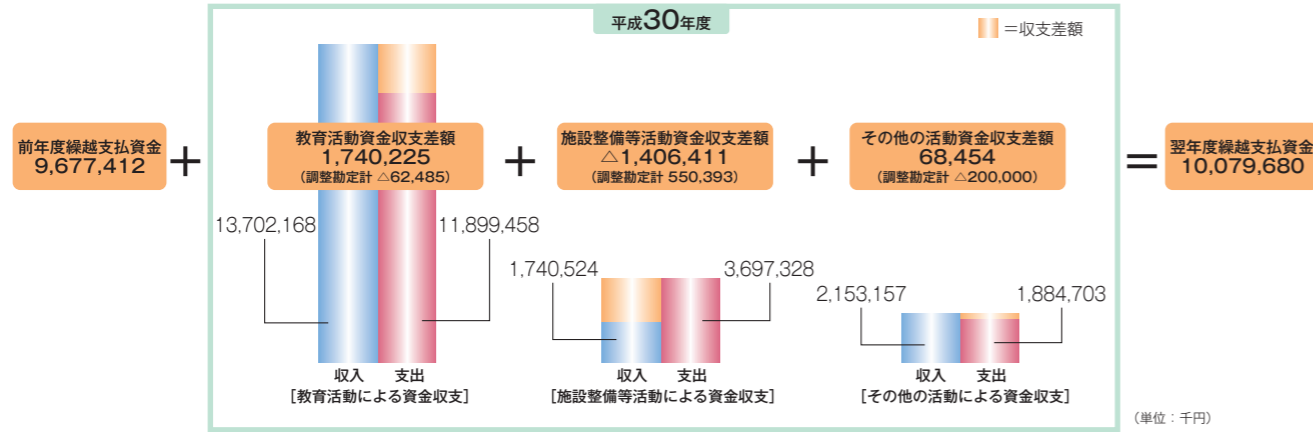
**事業活動支出** 資金収支計算書の支出の部の「人件費支出(退職金支出を除き、事業活動支出科目の退職給与引当金繰入額・退職金を加える)」、「教育研究経費支出」、「管理経費支出(減価償却額を加える)」、「借入金等利息支出」に事業活動支出のみの項目である「資産処分差額」、「徴収不能額等」を加えたものです。

**基本金組入前当年度収支差額** 事業活動収入と事業活動支出との差です。毎期の収支バランスをみるとともに、基本金組入れ余力を表示します。



# II 財務の概要

## I 繰越支払資金の流れ



## II 事業活動収支決算の概要

学園全体の事業活動収入は144億60百万円、事業活動支出は139億71百万円となり、差額である基本金組入前当年度収支差額は4億89百万円の収入超過となりました。また基本金組入額は前年度繰延額が多く、施設・設備関係支出を13億11百万円計上したものの、2億91百万円に留まりました。なお広野校地を売却し、代替地は既に白川台キャンパスを取得済みであるため、広野校地の土地にかかる基本金を取崩しましたが、それを含めた基本金組入後の収支差額はプラスとなりました。

予算対比でみますと、事業活動収入(予算は143億05百万円)は、ほぼすべての科目で上回りました。資金収支の箇所では説明した事項に加え、大学で科学研究費補助金で購入された機器を現物寄贈として受け入れ、寄付金が増加しました。他方、事業活動支出(予算は140億19百万円)は、人件費と資産処分差額では予算を上回ったものの、予備費で1億61百万円の残額が発生したことから、48百万円の減額となり、予算では2億86百万円であった基本金組入前当年度収支差額は、先述のとおり4億89百万円となりました。

以上、収入は増額、支出は減額となり、予算では2億86百万円であった基本金組入前当年度収支差額は、先述のとおり4億89百万円となりました。

次に、前年度決算と比較しますと、収入は3億円の減額、支出は2億53百万円の増額となりました。収入は改定3年目となった学生生徒等納付金、広野校地売却による資産売却差額が増額し、さらには入学検定料を含む手数料も志願者が引き続き伸び、57百万円の増加となりましたが、前年度収入を大きく引き上げた遺贈募金が影響し、減額となりました。他方、支出面は「顔がわかる」少人数教育をはじめ、教学新機軸の推進による教職員人件費の増額。修繕費や委託業務費、さらには創立100周年記念事業の支出が増加しました。教育研究経費は前年度、iCommons建設費の一部を会計上適切に処理する必要から経費に振替え、増額しましたが、今年度も同処理が生じ、さらにKONANプレミア・プロジェクトの活発化により、引き続き増額となりました。

基本金組入額は前年度iCommons建設や遺贈募金の組入れもあり、42億27百万円を計上しましたが、今年度は奨学金等の基金である第3号基本金への組入れを行ったものの、建物の前年度繰延額が組入額を押し下げ、39億36百万円減の2億91百万円となりました(貸借対照表の前年度比2億43百万円は広野校地土地(48百万円)の取崩しを反映しています)。

## 《科目の説明》

- 1. 学生生徒等納付金**  
授業料、入学金、施設設備資金、施設維持費、教育充実費、実験実習費等
- 2. 手数料**  
入学検定料、証明書手数料等
- 3. 寄付金**  
教育振興募金、100周年記念事業募金、遺贈募金、企業様からの研究助成等
- 4. 補助金**  
経常費補助金(戦略的研究基盤形成支援事業を含む)、研究装置、設備、施設整備費等補助金等  
\* 研究設備や装置等の設備及び施設に対する寄付金と補助金は、特別収支の「その他の特別収入」に計上されます。
- 5. 受取利息・配当金**  
特定資産を含む金銭面の資産運用による収入(施設設備の貸出しによる「施設設備利用料収入」は含まれません)
- 6. 資産売却差額**  
固定資産(建物・構築物・備品・図書等)の除却・廃棄、有価証券の処分の際の差額(簿価を上回った金額)
- 7. 付随事業・収益事業収入**  
補助活動や受託事業、収益事業にかかる収入等
- 8. 雑収入**  
退職金財団からの交付金収入、研究費の間接経費分の収入、施設設備の貸出しによる収入等
- 9. 人件費**  
教員・職員に支給する本俸・期末手当・その他の手当及び所定福利費、役員報酬、退職給付引当金繰入額、退職金
- 10. 教育研究経費**  
教育研究のために要する経費及び教育研究用減価償却資産の減価償却額
- 11. 管理経費**  
教育研究経費以外の経費及び教育研究用以外の減価償却資産の減価償却額
- 12. 資産処分差額**  
固定資産(建物・構築物・備品・図書等)の除却・廃棄、有価証券の処分の際の差額(簿価を下回った金額)
- 13. 徴収不能額等**  
奨学金回収不能額を見積る引当金計上額、徴収が不能または徴収を免除した徴収不能額
- 14. 基本金組入額**  
校地・校舎・機器備品・図書等の充実・拡充のために取得した固定資産の充実に要した額及び教育研究基金等への組入額  
(基本金は学校法人が教育・研究を継続的に維持向上させていくために必要な校地・校舎・機械器具・図書等を取得した金額(第1号基本金)、校地・校舎等を取得するために年次的・段階的に積み立てる資金(第2号基本金)、教育・研究を維持充実するための積立(第3号基本金)及び恒常的に保持すべき資金として文部科学大臣の定める額(第4号基本金)の確保のために、充てられる金額です。)

## III 事業活動収支決算書・構成比率(学園総括)

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異	比率
教育活動収入				
学生生徒等納付金	11,209,783	11,214,569	△ 4,786	77.5%
手数料	660,375	662,304	△ 1,929	4.6%
寄付金	134,680	153,086	△ 18,406	1.1%
経常費等補助金	1,112,187	1,125,269	△ 13,082	7.8%
付随事業収入	155,319	158,178	△ 2,859	1.1%
雑収入	312,931	391,520	△ 78,589	2.7%
教育活動収入計	13,585,275	13,704,926	△ 119,651	94.8%
事業活動支出				
人件費	7,789,127	7,834,380	△ 45,253	54.2%
教育研究経費	5,271,995	5,259,880	12,115	36.3%
管理経費	745,903	731,193	14,710	5.1%
徴収不能額等	0	301	△ 301	0.0%
教育活動支出計	13,807,025	13,825,754	△ 18,729	95.6%
教育活動収支差額	△ 221,750	△ 120,828	△ 100,922	

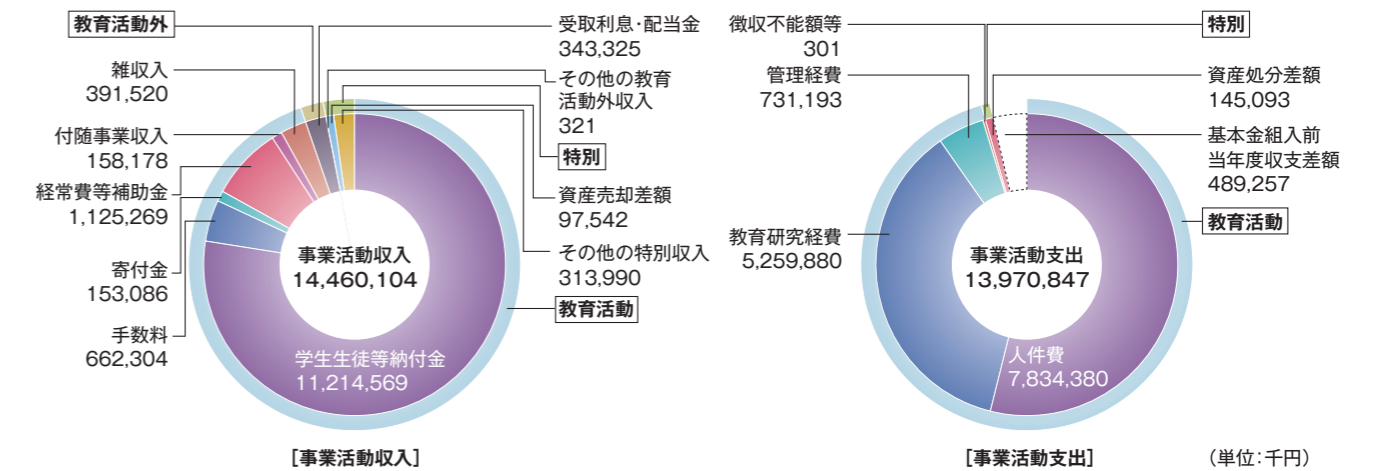
科目	予算	決算	差異	比率
教育活動外収入				
受取利息・配当金	342,652	343,325	△ 673	2.4%
その他の教育活動外収入	400	321	79	0.0%
教育活動外収入計	343,052	343,646	△ 594	2.4%
教育活動外支出				
借入金等利息	0	0	0	0.0%
その他の教育活動外支出	0	0	0	0.0%
教育活動外支出計	0	0	0	0.0%
教育活動外収支差額	343,052	343,646	△ 594	
経常収支差額	121,302	222,818	△ 101,516	

科目	予算	決算	差異	比率
特別収入				
資産売却差額	97,600	97,542	58	0.7%
その他の特別収入	278,574	313,990	△ 35,416	2.1%
特別収入計	376,174	411,532	△ 35,358	2.8%
特別支出				
資産処分差額	51,190	145,093	△ 93,903	1.0%
その他の特別支出	0	0	0	0.0%
特別支出計	51,190	145,093	△ 93,903	1.0%
特別収支差額	324,984	266,439	58,545	

[ 予備費 ]	161,100		161,100	
基本金組入前当年度収支差額	285,186	489,257	△ 204,071	
基本金組入額合計	△ 578,219	△ 290,821	△ 287,398	△ 2.0%
当年度収支差額	△ 293,033	198,436	△ 491,469	
前年度繰越収支差額	△ 17,066,219	△ 17,066,219	0	
基本金取崩額	0	47,458	△ 47,458	
翌年度繰越収支差額	△ 17,359,252	△ 16,820,325	△ 538,927	

(参考)

事業活動収入計	14,304,501	14,460,104	△ 155,603	100.0%
事業活動支出計	14,019,315	13,970,847	48,468	96.6%



※表の構成比率及び円グラフは、事業活動収入計「決算」を100とした場合の当該科目の比率及び円グラフとなっています。  
 ・「その他の教育活動外収入」には、収益事業収入が計上されています。  
 ・「その他の特別収入」には、施設設備の寄付金と補助金、現物寄付が計上されています。

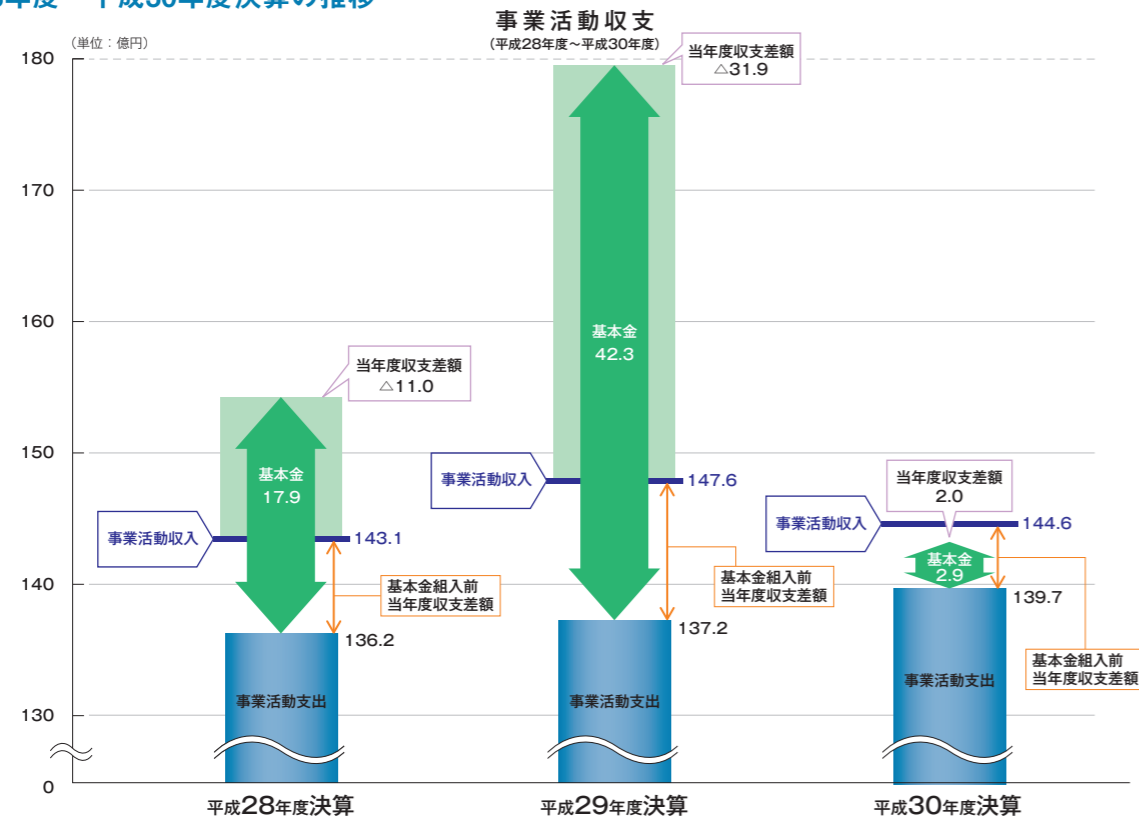
# II 財務の概要

## I 事業活動収支(旧:消費収支)決算の推移(学園総括) 平成25年度から平成30年度まで (単位:千円)

科目	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業活動収入(旧:帰属収入)		14,174,509	13,635,490	13,822,799	14,311,092	14,759,591	14,460,104
基本金組入額		△ 1,352,153	△ 1,299,164	△ 2,703,176	△ 1,791,097	△ 4,226,794	△ 290,821
旧:消費収入		12,822,356	12,336,326	11,119,623	12,519,995	10,532,797	14,169,283
事業活動支出(旧:消費支出)		13,604,529	13,483,757	13,523,535	13,622,500	13,718,286	13,970,847
基本金組入前当年度収支差額(旧:帰属収支差額)		569,980	151,733	299,264	688,592	1,041,305	489,257
当年度収支差額(旧:消費収入超過額)		△ 782,173	△ 1,147,431	△ 2,403,912	△ 1,102,505	△ 3,185,489	198,436
基本金取崩額		-	-	-	-	-	47,458
繰越収支差額(累計)		△ 9,226,882	△ 10,374,313	△ 12,778,225	△ 13,880,730	△ 17,066,219	△ 16,820,325

(注)「事業活動収入」の「(旧:帰属収入)」は、平成26年度までの旧基準では「帰属収入」であったことを表します(以下の表も同様です)。

## II 平成28年度～平成30年度決算の推移



## III 主な施設・設備の整備状況(学園全体)

平成30年度に行った主な工事は以下のとおりです。

工事名称	対象施設	概要
空調改修工事	大学 岡本キャンパス5号館、9号館、平生記念セミナーハウス	老朽化した空調設備を更新。省エネを図るとともに快適なゼミ室、講義室環境を提供。
アドミッションオフィス整備工事	大学 岡本キャンパス5号館	キャリアセンターiCommons移転の跡地にアドミッションオフィスを移転。
アクティブラーニングエリアの整備工事	大学 岡本キャンパス7号館	サイエンス・ラーニング commonsの2期工事として7号館1階に新たなアクティブラーニングエリア(SaLaCo-West)を整備。
トイレ改修工事	大学 岡本キャンパス10号館	老朽化した10号館低層1階トイレのリニューアル工事を実施。
緞帳更新工事	大学 岡本キャンパス講堂兼体育館	老朽化した緞帳を創立100周年記念デザインに更新。
照明LED化工事	大学 岡本キャンパス3号館、5号館	3号館3階講義室及び5号館エントランスの照明LED化工事を実施。
野球場防球ネットかさ上げ工事	大学 六甲アイランド総合体育施設(北敷地)	安全対策として野球場の防球ネットのかさ上げを実施。
テニスコート整備工事	大学 六甲アイランド総合体育施設(南敷地)	オムニコートハードコートに整備するとともにフェンスを改修。
甲友会館増築工事	中高 学園創立90～100周年記念甲友会館	食堂(甲友ラウンジ)の席数増設にともなうリニューアル工事。1階宿泊室・トイレの増設及び建物前に屋根を設置するとともに既存の通路屋根の改修工事を実施。
中学棟教室床改修工事	中高 中学棟	老朽化した教室の床の張り替えを実施。
ブロック撤去・再整備工事	大学・中高 岡本キャンパス、中高テニスコート・プール敷地	3年計画の1年目の工事が完了。岡本キャンパス5号館南側通路にあったブロック塀を撤去。大学、中高において公道に面したブロック塀をフェンスに再整備。

## I 貸借対照表(平成31年3月31日) (単位:千円)

資産の部				負債の部			
科目	平成30年度末	平成29年度末	増減	科目	平成30年度末	平成29年度末	増減
固定資産	80,283,430	79,898,895	384,535	固定負債	4,620,386	4,527,761	92,625
有形固定資産	60,286,875	60,994,744	△ 707,869	長期借入金	0	0	0
土地	22,441,976	22,489,434	△ 47,458	長期未払金	103,551	0	103,551
建物	29,151,297	29,932,718	△ 781,421	退職給与引当金	4,516,835	4,527,761	△ 10,926
構築物	1,569,008	1,547,894	21,114	流動負債	2,560,037	2,836,742	△ 276,705
教育研究用機器備品	1,669,847	1,603,731	66,116	短期借入金	0	0	0
管理用機器備品	21,888	24,390	△ 2,502	未払金	455,422	626,963	△ 171,541
図書	5,425,646	5,383,107	42,539	前受金	1,905,723	2,027,166	△ 121,443
車輜	4,286	5,964	△ 1,678	預り金	198,892	182,613	16,279
建設仮勘定	2,927	7,506	△ 4,579	負債の部合計	7,180,423	7,364,503	△ 184,080
特定資産	19,629,984	18,487,470	1,142,514				
第2号基本金引当特定資産	115,457	115,457	0	大学施設設備充実資金	115,457		(平成30年度末)
第3号基本金引当特定資産	5,109,792	5,056,725	53,067	奨学助成基金	1,770,909		
退職給与引当特定資産	2,258,418	2,263,880	△ 5,462	国際教育研究交流基金	1,387,752		
償却引当特定資産	6,328,516	5,343,080	985,436	八木慎二「わがみちをすすめ」奨学基金	651,253		
理系学部設備充実費引当特定資産	165,736	152,143	13,593	教育・研究助成(中高)基金	488,802		
大学教育・研究環境整備充実費引当特定資産	2,307,888	2,304,563	3,325	他			(平成30年度末)
大学将来計画準備引当特定資産	956,640	974,734	△ 18,094				
平生太郎基金引当特定資産	2,118,470	2,008,021	110,449				
岡崎一雄基金引当特定資産	9,540	9,340	200				
八木慎二基金引当特定資産	186,093	186,093	0				
中高教育充実引当特定資産	73,434	73,434	0				
その他の固定資産	366,571	416,681	△ 50,110				
電話加入権	4,609	4,609	0	純資産の部			
施設利用権	5,800	6,972	△ 1,172	科目	平成30年度末	平成29年度末	増減
ソフトウェア	7,124	10,024	△ 2,900	基本金	100,366,083	100,122,720	243,363
長期貸付金	197,017	243,062	△ 46,045	第1号基本金	94,316,834	94,126,538	190,296
長期未収入金	0	0	0	第2号基本金	115,457	115,457	0
出資金	25,247	25,138	109	第3号基本金	5,109,792	5,056,725	53,067
敷金・保証金	126,774	126,876	△ 102	第4号基本金	824,000	824,000	0
流動資産	10,442,751	10,522,109	△ 79,358	繰越収支差額	△ 16,820,325	△ 17,066,219	245,894
現金預金	10,079,680	9,677,412	402,268	翌年度繰越収支差額	△ 16,820,325	△ 17,066,219	245,894
未収入金	211,749	688,374	△ 476,625	純資産の部合計	83,545,758	83,056,501	489,257
前払金	150,565	153,112	△ 2,547				
仮払金	757	126	631				
立替金	0	3,085	△ 3,085				
資産の部合計	90,726,181	90,421,004	305,177	負債及び純資産の部合計	90,726,181	90,421,004	305,177

## (注記)貸借対照表の補足説明

その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

○有価証券の時価情報(総括表)

(単位:千円)

種類	平成30年度(平成31年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの(うち満期保有目的の債券)	6,238,653(1,900,000)	9,006,957(1,956,826)	2,768,304(56,826)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの(うち満期保有目的の債券)	4,467,089(1,900,000)	4,139,704(1,772,560)	△ 327,385(△ 127,440)
合計(うち満期保有目的の債券)	10,705,742(3,800,000)	13,146,661(3,729,386)	2,440,919(△ 70,614)
時価のない有価証券	8,000		
有価証券合計	10,713,742		

# II 財務の概要

## I 財務状況の推移(学園総括) 平成25年度から平成30年度まで

(単位:千円)

科目	年度	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度末	平成30年度末
総資産		88,419,425	88,639,938	88,767,591	89,111,390	90,421,004	90,726,181
固定資産		78,386,264	78,346,382	78,854,695	79,003,218	79,898,895	80,283,430
有形固定資産		57,611,811	57,515,542	57,907,450	58,810,260	60,994,744	60,286,875
特定資産		20,087,388	20,228,064	20,018,230	19,719,139	18,487,470	19,629,984
その他の固定資産		687,065	602,776	929,015	473,819	416,681	366,571
流動資産		10,033,161	10,293,556	9,912,896	10,108,172	10,522,109	10,442,751
総負債		7,543,818	7,612,598	7,440,987	7,096,194	7,364,503	7,180,423
固定負債		4,787,740	4,678,542	4,584,451	4,549,490	4,527,761	4,620,386
流動負債		2,756,078	2,934,056	2,856,536	2,546,704	2,836,742	2,560,037
(うち、借入金)		0	0	0	0	0	0
基本金		90,102,489	91,401,653	94,104,829	95,895,926	100,122,720	100,366,083
繰越収支差額 (旧:消費収支差額)		△ 9,226,882	△ 10,374,313	△ 12,778,225	△ 13,880,730	△ 17,066,219	△ 16,820,325
純資産 (旧:正味財産)		80,875,607	81,027,340	81,326,604	82,015,196	83,056,501	83,545,758

(注) 平成27年度の学校法人会計基準の改正(新基準)から、「その他の固定資産」のうち、各種引当特定資産を抽出して中科目「特定資産」が新設されました。  
(平成26年度以前も新基準に合わせて分解し、表示しています。)

## I 財務比率の推移(学園総括) 平成25年度から平成30年度まで

経年推移・比較が分かるよう、旧基準の数値も掲載しています。

(単位:%)

	比率名	算式(×100)	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
貸借対照表関係	固定資産構成比率	固定資産 総資産	88.7 (87.4)	88.4 (87.2)	88.8 (87.2)	88.7 (87.3)	88.4 (87.3)	88.5
	固定比率	固定資産 *純資産(旧:自己資金)	96.9 (101.0)	96.7 (100.5)	97.0 (100.3)	96.3 (100.1)	96.2 (99.9)	96.1
	固定長期適合率	固定資産 *純資産+固定負債 (純資産は、旧:自己資金)	91.5 (92.6)	91.4 (92.2)	91.8 (92.2)	91.3 (92.2)	91.2 (92.2)	91.1
	流動比率	流動資産 流動負債	364.0 (223.8)	350.8 (235.3)	347.0 (239.1)	396.9 (237.9)	370.9 (240.2)	407.9
	流動負債構成比率	流動負債 総負債+純資産	3.1 (5.6)	3.3 (5.4)	3.2 (5.3)	2.9 (5.3)	3.1 (5.3)	2.8
	総負債比率	総負債 総資産	8.5 (13.5)	8.6 (13.3)	8.4 (13.0)	8.0 (12.8)	8.1 (12.6)	7.9
	退職給与引当預金率	退職給与引当特定預金(資産) 退職給与引当金	50.0 (65.0)	50.0 (65.5)	50.0 (67.7)	50.0 (68.5)	50.0 (69.0)	50.0
	償却引当預金率	償却引当特定預金(資産) 償却引当金	27.5 (19.1)	29.0 (18.3)	24.3 (17.9)	23.1 (17.4)	16.5 (17.8)	18.8

(単位:%)

	比率名	算式(×100)	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業活動収支関係	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 *事業活動収入 (旧:帰属収入) [新]学生生徒等納付金 経常収入	77.1 (74.8)	77.8 (73.9)	77.0 (73.6)	74.9 (73.2)	74.3 (74.3)	77.6
	寄付金比率	寄付金 *事業活動収入 (旧:帰属収入) [新]教育活動収入の寄付金 経常収入	2.8 (1.6)	1.3 (1.6)	1.9 (1.9)	4.6 (3.9)	8.1 (1.7)	3.0
	[新]経常寄付金比率	教育活動収入の寄付金 経常収入	2.0	0.9	0.8 (1.2)	1.6 (2.7)	5.3 (1.3)	1.1
	補助金比率	補助金 *事業活動収入 (旧:帰属収入) [新]教育活動収入の補助金 経常収入	9.8 (12.1)	10.0 (11.9)	11.6 (11.2)	11.9 (11.0)	8.4 (11.1)	8.0
	[新]経常補助金比率	教育活動収入の補助金 経常収入	9.4	9.6	8.9 (11.5)	9.3 (11.3)	8.6 (11.4)	8.0
	人件費比率	人件費 *帰属収入 (新:事業活動収入) [新]人件費 経常収入	57.6 (52.5)	59.8 (52.3)	56.2 (51.7)	53.2 (51.7)	52.4 (52.1)	54.2
	人件費依存率	人件費 学生生徒等納付金	74.6 (70.2)	76.8 (70.8)	73.1 (70.3)	70.9 (70.5)	70.6 (70.2)	69.9
	教育研究経費比率	教育研究経費 *帰属収入 (新:事業活動収入) [新]教育研究経費 経常収入	32.6 (33.6)	34.5 (33.6)	35.6 (33.4)	34.5 (32.6)	34.6 (33.3)	36.3
	管理経費比率	管理経費 *帰属収入 (新:事業活動収入) [新]管理経費 経常収入	4.7 (7.3)	4.3 (7.5)	4.4 (7.3)	4.5 (7.4)	4.5 (7.3)	5.1
	事業活動支出比率	(旧:消費支出) 事業活動支出 事業活動収入 (旧:帰属収入)	96.0 (95.2)	98.9 (94.9)	97.8 (94.0)	95.2 (93.2)	92.9 (94.2)	96.6
基本金組入率	基本金組入額 事業活動収入 (旧:帰属収入)	9.5 (11.2)	9.5 (10.2)	19.6 (10.9)	12.5 (12.1)	28.6 (10.1)	2.0	

(注) ( )内は全国理工他複数学部法人平均。  
 ・「新」は平成27年度の学校法人会計基準の一部改正(新基準)を受けたものであることを表します。  
 ・「固定資産」=有形固定資産+特定資産+その他の固定資産。平成27年度からの新基準より、「その他の固定資産」から各種引当特定資産を抽出して「特定資産」が区分されました。  
 ・「純資産」=旧来の「自己資金」。「自己資金」は基本金+消費収支差額であり、新基準では基本金+繰越収支差額となります。  
 ・「経常収入」=教育活動収入+教育活動外収入。

# Ⅲ 法人の概要

<b>名称</b>	学校法人甲南学園		
<b>法人設立の年月日</b>	大正7(1918)年12月20日		
<b>設置学校</b>	甲南大学・大学院		
	◎岡本キャンパス	〒658-8501	兵庫県神戸市東灘区岡本8丁目9番1号
	◎西宮キャンパス	〒663-8204	兵庫県西宮市高松町8番33号
	◎ポートアイランドキャンパス	〒650-0047	兵庫県神戸市中央区港島南町7丁目1番20
	-----		
	甲南高等学校・中学校	〒659-0096	兵庫県芦屋市山手町31番3号

## Ⅰ役員(平成31年3月31日現在)

**理事**※1 定数19～29名以内  
現員28名

吉沢英成 (理事長)
片山勉 (副理事長・常任理事)
長坂悦敬 (学長・常任理事)
山内守明 (校長・常任理事)
中井伊都子 (副学長・常任理事)
佐藤泰弘 (副学長・常任理事)
野澤太郎 (常任理事)
村津敬介 (常任理事)
稲垣嗣夫 (常任理事)
佐藤治正 (マネジメント創造学部教授・常任理事)
渡辺颯修 (法学研究科長・常任理事)
平野欽一郎 (常務理事・常任理事)
葉袋真人 (常勤)
谷富夫 (文学部長)
渡邊順司 (理工学部長)
上島康弘 (経済学部長)
池田佳隆 (法学部長)
杉山善浩 (経営学部長)
市川典男
山田純嗣
伊藤勲
小西新太郎
小林豊
杉本直己 (先端生命工学研究所長)
角和夫

中内仁
平生誠三
水越浩士

**監事**※2 定数2～3名以内  
現員2名

植村武雄
牧美喜男 (常勤)

**評議員**※3 定数41～60名以内  
現員58名

石井昇 (学内)
石野牧生 (学内)
位原美智子 (学内)
河口浩 (学内)
高龍秀 (学内)
谷向豊 (学内)
寺尾建 (学内)
濱谷和生 (学内)
林正樹 (学内)
村嶋貴之 (学内)
足立恵英 (学内)
吉田和史 (学内)

赤田真朗
伊豫田隆俊 (学内)
衣斐茂樹
奥田兼三
小倉宏之
片山勉 (学内)
佐藤茂
白石朋康
杉山洋一
立野純三
道満善弘
松井佐一郎
丸谷昭博
葉袋真人 (学内)
和田直哉
稲垣嗣夫
平生誠三
平野欽一郎 (学内)
吉沢英成 (学内)
長坂悦敬 (学内)
山内守明 (学内)
谷富夫 (学内)
渡邊順司 (学内)
上島康弘 (学内)
池田佳隆 (学内)

杉山善浩 (学内)
渡辺颯修 (学内)
宇津原彰一
金岡信康
上林宏充
嶋進
清水弓彦
小泉祐助
佐々木トモミ
市川典男
岩崎邦彦
岩田憲明
上島一泰
加藤隆久
佐々木良太郎
佐藤治正 (学内)
佐藤泰弘 (学内)
中井伊都子 (学内)
細谷俊雄
西田和雅 (学内)
山田純嗣

※1 学校法人の決議機関は理事会であり、私立学校法は、「学校法人に理事をもって組織する理事会を置く。」「理事会は学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。」としています。理事は理事会に参画し、学校法人の業務を決めていきます。

※2 監事は、理事と同じように学校法人の役員となっています。監事は監査機関であって、①学校法人の業務、②学校法人の財産の状況を監査すること等が主たる職務とされています。そのほか、監査報告書の作成、学校法人の業務又は財産の状況について、理事会に出席して意見を述べることその職務とされています。監事は、評議員会の同意を得て理事長が選任します。また、監事は、監査の公正を保つために、理事、評議員又は学校法人の職員と兼ねてはならないこととされています。

※3 評議員会は、学校法人の重要事項について、理事長から意見を求められ、理事長に対して意見を述べる諮問機関としての役割があります。予算の決定、基本財産の処分、寄附行為の変更等の重要案件については、理事長はあらかじめ評議員会から意見を聞かなければならないこととされています。

## Ⅰ土地と建物(平成31年3月31日現在)

土地面積	
大学	197,211.24㎡
高中	45,791.00㎡
その他(職員住宅等)	4,908.08㎡
土地面積総合計	247,910.32㎡

建物面積	
大学	147,528.92㎡
高中	18,908.58㎡
その他(職員住宅等)	1,559.95㎡
建物面積総合計	167,997.45㎡

## 大学・大学院・高等学校・中学校基本データ

### Ⅰ学位授与 学士

学部	学士(分野)		学科	
文学部	学士(文学)	350名	日本語日文学科	82名
	学士(社会学)	99名	英語英米文学科 社会学科 人間科学科 歴史文化学科	96名 99名 100名 72名
理工学部	学士(理工学)	96名	物理学科	62名
	学士(理学)	77名	生物学科 機能分子化学科	46名 65名
経済学部	学士(経済学)	364名	経済学科	364名
法学部	学士(法学)	364名	法学科	364名
経営学部	学士(経営学)	419名	経営学科	419名
知能情報学部	学士(工学)	121名	知能情報学科	126名
	学士(情報学) 学士(理学)	0名 5名		
マネジメント創造学部	学士(マネジメント)	184名	マネジメント創造学科	184名
フロンティアサイエンス学部	学士(理工学)	27名	生命化学科	27名

### 修士

研究科	修士(分野)		専攻	
人文科学研究科	修士(文学)	6名	日本語日文学専攻	0名
	修士(社会学)	0名	英語英米文学専攻 応用社会学専攻 人間科学専攻	0名 0名 6名
自然科学研究科	修士(理学)	18名	物理学専攻	3名
	修士(工学)	4名	化学専攻 生物学専攻 知能情報学専攻	10名 3名 6名
社会科学研究科	修士(経済学)	5名	経済学専攻	5名
	修士(経営学)	0名	経営学専攻	0名
フロンティアサイエンス研究科	修士(理工学)	8名	生命化学専攻	8名

### 博士

研究科	博士(分野)		専攻	
人文科学研究科	博士(文学)	1名	英語英米文学専攻	1名
	博士(社会学)	2名	社会学専攻	2名
自然科学研究科	博士(理学)	2名	生命・機能科学専攻	2名
社会科学研究科	博士(経営学)	1名	経営学専攻	1名
フロンティアサイエンス研究科	博士(理工学)	2名	生命化学専攻	2名

### 専門職

研究科	学位(専門職)	専攻
法学研究科	法務博士(専門職) 13名	法務専攻 13名

## Ⅰ留学者数

### 大学

主な国際交流・留学支援プログラム		派遣人数	受入人数
交換留学	1年	9	4 (*15)
	半年	5	10 (*3)
中長期留学プログラム	語学プラス交換留学(語学+専門科目)	10	—
	奨励留学	61	—
	認定校留学	13	—
	マネジメント創造学部派遣留学	17	—
	(特別留学コース)	—	—
	マネジメント創造学部派遣留学(マネジメントコース)	1	—
	甲南大学イヤー・イン・ジャパンプログラム	—	46
小計	116	60	
私費外国人留学生・研究生	—	5	
その他	海外インターンシップ・海外企業訪問(マネジメント創造学部)	10	—
	海外フィールドワーク・海外ボランティア(マネジメント創造学部)	10	—
	エリアスタディーズ(短期留学体験型プログラム)	175	—
	海外ボランティア	20	—
	日本語教授法実習	5	—
	海外語学講座	59	—
	夏期日本語集中講座	—	27
	協定校プログラム	0	76
	小計	279	103
	合計	395	168

※は、甲南大学イヤー・イン・ジャパンプログラム46名中の交換留学者数

### 高等学校・中学校

主な留学派遣・受入先		派遣人数	受入人数
交換留学	イギリス	1	4
	オーストラリア	2	6
	アメリカ(ハワイ)	1	4
	ニュージーランド	0	0
	カナダ	3	—
グローバル・スタディ・プログラム	アメリカ	6	—
	オーストラリア	3	—
	イギリス	8	—
グローバル・ファウンデーション	ニュージーランド	3	—
英語研修	オーストラリア	27	—
	オーストラリア	13	0
	ニュージーランド	0	14
グローバル・スタディ・ツアー	タイ	15	—
合計		82	28

# Ⅲ 法人の概要

## I 入学試験状況

### 大学

学部・学科	一般入試			センター利用入試			その他の入試			
	志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	日本語日本文学科	515	503	79	345	343	70	92	91	40
	英語英米文学科	665	655	130	431	430	108	89	87	47
	社会学科	609	595	89	374	371	86	103	102	51
	人間科学科	854	836	123	474	470	64	124	124	51
	歴史文化学科	576	561	77	485	482	61	73	72	34
	小計	3,219	3,150	498	2,109	2,096	389	481	476	223
理工学部	物理学科	628	599	162	265	259	69	51	50	27
	生物学科	519	511	163	220	218	38	49	48	24
	機能分子化学科	601	581	212	237	231	73	42	40	24
	小計	1,748	1,691	537	722	708	180	142	138	75
経済学部	2,121	2,077	380	1,430	1,418	326	310	308	194	
法学部	2,180	2,121	391	1,853	1,827	363	326	323	194	
経営学部	2,155	2,088	307	1,498	1,470	211	689	684	248	
知能情報学部	914	889	185	687	667	101	161	160	70	
マネジメント創造学部	1,116	1,089	172	637	615	105	314	309	115	
フロンティアサイエンス学部	243	236	79	259	254	105	77	75	23	
合計	13,696	13,341	2,549	9,195	9,055	1,780	2,500	2,473	1,142	

### 大学院(修士課程)

課程	研究科・専攻	志願者数	受験者数	合格者数
人文科学	日本語日本文学専攻	0	0	0
	英語英米文学専攻	2	2	1
	応用社会学専攻	5	5	3
	人間科学専攻	0	0	0
	小計	7	7	4
自然科学	物理学専攻	24	23	17
	化学専攻	11	11	11
	生物学専攻	11	11	10
	知能情報学専攻	14	14	9
	小計	60	59	47
社会科学	経済学専攻	6	6	5
	経営学専攻	1	1	1
	小計	7	7	6
フロンティアサイエンス	生命化学専攻	10	10	9
合計		84	83	66

### 大学院(博士後期課程)

課程	研究科・専攻	志願者数	受験者数	合格者数
人文科学	日本語日本文学専攻	0	0	0
	英語英米文学専攻	0	0	0
	応用社会学専攻	0	0	0
	人間科学専攻	1	1	1
	小計	1	1	1
自然科学	物理学専攻	0	0	0
	生命・機能科学専攻	0	0	0
	知能情報学専攻	0	0	0
	小計	0	0	0
社会科学	経営学専攻	3	3	3
フロンティアサイエンス	生命化学専攻	2	2	2
合計		6	6	6

### 大学院(専門職学位課程)

専攻	志願者数	受験者数	合格者数
法科大学院(法学研究科法務専攻)	173	127	50

### 高等学校

募集形態	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
アドバンスト・コース	35	35	23	21	1.52
一般・推薦入試併願(上記に含む)	(7)	(7)	(6)	(4)	

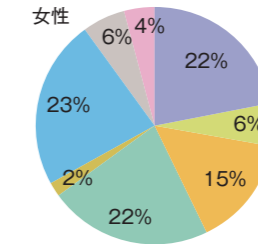
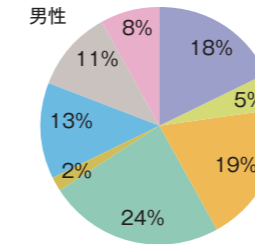
### 中学校

募集形態	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
I期午前入試	156	156	105	93	1.4
I期午後入試	264	257	129	27	1.9
II期入試	284	159	80	22	1.9
III期入試	179	69	35	18	1.9
甲南小学校	26	26	26	26	-
合計	909	667	375	186	-

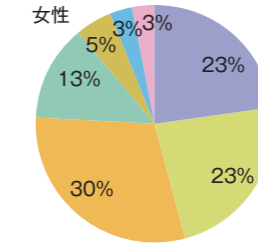
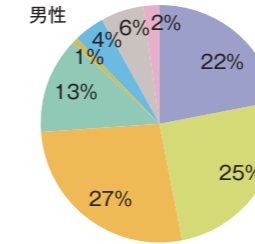
## I 大学(学部学生)の就職状況

### 業種別就職状況

#### <文系>



#### <理系>



### 規模別就職状況

従業員数	文系			理系			全体		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
3,000人以上	24%	21%	23%	29%	26%	29%	25%	21%	23%
1,000人以上	24%	22%	23%	23%	24%	23%	24%	22%	23%
500人以上	18%	21%	19%	15%	21%	16%	17%	21%	19%
500人未満	34%	36%	35%	33%	29%	33%	34%	36%	35%
総計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

### 主な就職先

就職先
NTN株式会社
京セラ株式会社
株式会社コーセー
スズキ株式会社
住友ゴム工業株式会社
日本製鉄株式会社
日立建機株式会社
レンゴー株式会社
株式会社ロッテ
ローム株式会社
ヤンマー株式会社
小林製薬株式会社
大塚製薬株式会社
岩谷産業株式会社
株式会社日本アクセス
株式会社大林組
積水ハウス株式会社
ソフトバンク株式会社
富士通株式会社

就職先
楽天株式会社
株式会社阪急阪神百貨店
株式会社良品計画
株式会社ジェイティービー
株式会社帝国ホテル
西日本旅客鉄道株式会社
日本航空株式会社
株式会社みずほ銀行
株式会社三井住友銀行
株式会社三菱UFJ銀行
三井住友信託銀行株式会社
三井住友海上火災保険株式会社
日本生命保険相互会社
野村證券株式会社
兵庫県庁
神戸市役所
法務省 大阪入国管理局
大阪国税局
兵庫県教育委員会

# Ⅲ 法人の概要

## Ⅰ 学生・生徒数(平成30年5月1日現在)

### 大学

学部	入学定員	編入定員	収容定員	実員
文学部	400	10	1,620	1,884
理工学部	155	—	620	713
経済学部	345	—	1,395	1,621
法学部	345	—	1,395	1,681
経営学部	345	—	1,380	1,687
知能情報学部	120	—	480	552
マネジメント創造学部	180	—	720	800
フロンティアサイエンス学部	45	—	150	170
合計	1,935	10	7,760	9,108

### 高等学校・中学校

学校	入学定員	収容定員	実員
高等学校	200	600	550
中学校	175	525	539

### 大学院

研究科	課程	入学定員	収容定員	実員	課程	入学定員	収容定員	実員
人文科学研究科	修士	26	52	25	博士後期	10	30	14
自然科学研究科	修士	35	70	53	博士後期	8	24	15
社会科学研究科	修士	20	40	12	博士後期	3	9	10
フロンティアサイエンス研究科	修士	10	20	22	博士後期	1	3	4
合計		91	182	112		22	66	43

### 専門職大学院

研究科	入学定員	収容定員	実員
法学研究科	20	60	58
合計	20	60	58

## Ⅱ 卒業生累計数(平成31年3月31日現在)

旧制中学校・旧制高等学校	1,889
新制高等学校	12,079

学部	卒業生累計数
学部	104,735
大学院(修士)	2,552
大学院(博士)	156 ※
専門職大学院	622

※うち46件は論文博士

## Ⅲ 専任教職員数(平成30年5月1日現在)

### 大学・大学院・センター・研究所

	文学部	理工学部	経済学部	法学部	経営学部	知能情報学部	創造マネジメント学部	フロンティアサイエンス学部	国際言語文化センター	スポーツ・健康科学研究センター	共通教育センター	国際交流センター	教職教育センター	学生相談室	先端生命工研所	法科大学院	学長直属	合計
教授	43	27	18	18	22	11	10	9	8	5	5	0	0	0	1	12	0	189
准教授	6	6	4	5	1	8	8	4	5	2	2	0	0	0	1	3	0	55
講師	2	1	1	1	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	2	0	0	11
助教	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
特任等	3	2	4	0	2	0	6	0	5	0	2	3	1	1	0	0	3	32
合計	54	37	27	24	26	19	24	14	19	7	10	3	1	1	4	15	3	288

※実務家教員を含む。

### 高等学校・中学校

校長	教諭	契約	養護教諭	司書教諭	合計
1	52	3	1	1	58

### 職員

専任	嘱託	契約	合計
164	38	12	214

## Ⅳ 事務組織図(平成31年3月31日現在)

学	経営企画室	
	スポーツ強化支援室	
	総務部	総務課 人事課
	財務部	
	管財部	
	情報システム室	
	広報部	広報課 甲友課
	学園振興募金室	
	ネットワークキャンパス東京事務所	
	監査部	
大	学長室	
	教務部	
	学生部	
	キャリアセンター	
	図書館事務室	
	アドミッションセンター	
	教育学習支援センター事務室	
	法科大学院事務室	
	文学部事務室	
	理工学部・知能情報学部事務室	
	経済・法・経営学部合同事務室	
	西宮キャンパス事務室	
	ポートアイランドキャンパス事務室	
	国際言語文化センター事務室	
	スポーツ・健康科学教育研究センター事務室	
	共通教育センター事務室	
	国際交流センター事務室	
	教職教育センター事務室	
公認心理師養成センター事務室		
カウンセリングセンター・人間科学研究所事務室		
フロンティア研究推進機構事務室		
地域連携センター事務室		
高等学校・中学校	高等学校・中学校事務室	